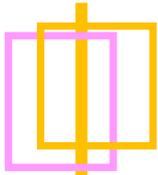
The background of the page is decorated with numerous overlapping circles in various shades of pink and red, creating a soft, bokeh-like effect. The circles are scattered across the page, with a higher density at the top and bottom edges.

**令和7年度
学びに向かう力推進事業
取組のまとめ**

令和8年3月
滋賀県幼児期教育センター



目次

はじめに	3
------	---

研究指定校園の取組まとめ

研究2年目

高島市立静里なのはな園、高島市立新旭南小学校	4
------------------------	---

つながりの中で たくましく学ぶ子ども
～学びのサイクルを意識した取組を通して～

研究2年目

愛荘町立秦荘幼稚園、愛荘町立秦荘東小学校	18
----------------------	----

心を揺さぶられる学びを通して、思いや考えを伝え合う子どもをめざして
～「やってみたいな できたよ みてみて きいて」「それいいね」～

研究1年目

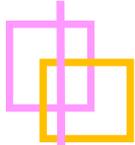
彦根市立城陽幼稚園、私立花田保育園、私立多景保育園、 私立どんぐりけんだいまえ保育園、彦根市立城陽小学校	33
---	----

聞き合おう 考えよう やってみよう
～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

研究1年目

栗東市立治田東こども園、栗東市立治田東小学校	45
------------------------	----

自分の思いや考えを伝えあい、学び合う子どもの育成
～しなやかな心もち、粘り強く取り組む子どもをめざして～



はじめに

県教育委員会では、幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を目指して、「学びに向かう力推進事業」を実施しています。令和2年度からは、研究指定の小学校に加配教員を配置し、週15時間程度、幼児教育施設で保育に参画するとともに、打合せや保育の準備に参加しています。今年度も、各研究指定校園では、「学びに向かう力」の育成につながる指導内容や方法の工夫・改善について、研究を推進していただきました。また、10～11月に開催した各研究指定校園における公開研修会には、のべ600名以上の参加者があり、幼保小接続についてともに学び合う機会となりました。

現在、「幼保小の架け橋プログラム」として、5歳児から小学校1年生までの2年間の「架け橋期」の教育の充実を図るための取組が全国各地で進められています。その取組の中核として、幼保小の先生が、共通の視点をもちながら、相互の教育内容や教育方法の充実を図るため、協働して作成するのが「架け橋期カリキュラム」です。滋賀県では、全小学校のうち、約6割の小学校が、園と合同で、「架け橋期のカリキュラム」を検討・開発していると回答しています（令和7年度「学びのアンケート」調査結果）。

ただ、本事業の目標は、画一的なカリキュラムの作成ではありません。カリキュラムを作成することで、子どもに関わる大人が、期待する子ども像や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」、大切にしたいことなどについて話し合い、幼児教育施設と小学校、また、幼児教育施設同士が互いの理解を深めることを大切にしています。その上で、最終的に互いの保育・授業の質を向上させること、幼保小の滑らかな接続を実現することを目指しています。

今年度も、研究指定校園では、「架け橋期カリキュラム」の作成を通じて、子どもに関わる大人が対話を重ね、互いの保育・教育の理解を深め、保育・授業の質を高める取組が行われました。それぞれの取組を参考にしながら、県内各校園が実態に応じて幼児教育と小学校教育の円滑な接続に努めていただきたいと思います。

最後になりましたが、本指定事業に熱心にお取り組みいただきました指定校園ならびに、指定校園の研究を支えていただきました各市町担当課の皆様、丁寧な御指導をいただいた講師の皆様に厚くお礼申し上げます。

令和8年3月 滋賀県幼児期教育センター

高島市立静里なのはな園・高島市立新旭南小学校

研究主題:つながりの中で たくましく学ぶ子

～学びのサイクルを意識した取組を通して～

1 主題設定の理由

湖西中学校区の園小中+高一貫教育の目標として「つながりの中でたくましく学ぶ子どもの育成」を掲げている。本地域の子どもたちは、決められたことには一生懸命前向きに取り組むことができる。しかし、自分の考えに自信がもてず、うまく表現できないため、友だちとの学び合いの中で、自分の考えや思いを深め、主体的に学びに向かっていく力は弱いと感じる。

昨年度の研究では、園小の互いを知る取組を通して、子どもの学びの様子を知り、学びをつなげる言葉がけや子どもたちの「やってみたい」思いを生かした保育・授業の展開を意識することができた。今年度においても、「きらきら・うきうき・どんどん」を合い言葉に「学びのサイクル」を意識して保育や授業を改善していく。心が動く体験を通して、自分の思いを友だちに伝えたり、友だちとの学び合いの中で、自分の考えや思いを深めたりして、さらに次の学びに発展していける子どもの育成を目指して本主題を設定した。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月17日	園小管理職、加配教員	園小接続推進委員会（実施計画、子どもの実態把握、研究主題設定、加配教員勤務計画など）
5月15・20・22日	園職員、幼児保育課指導員、加配教員	園内研修（事業取組の共通理解）
5月19日	園小中+高一貫教育部会部員	園小中+高一貫教育全体会（今年度の取組について）
5月・6月・10月	園職員	小学校の参観
5月～6月	園職員、小学校教員、幼児保育課参事・指導員、加配教員	園内研究会（1歳児から5歳児公開、小学校職員も参観）・・・県指導主事、幼児教育アドバイザー
5月29日	園管理職、5歳児担任、加配教員	園小接続推進委員会（架け橋期カリキュラム検証）
5月～	園職員、小学校職員、加配教員	校内研究会（各学年公開、園職員も参観）
5月～	小学校職員	職員会議（園での学びの様子、小学校とのつながりについて研修）
6月10日	園小管理職、5歳児担任、1年担任、加配教員	園小連絡会・園小接続推進委員会（架け橋期カリキュラム検証）
6月26日	園小管理職、加配教員	園小接続推進委員会（公開研修会について）
6月30日	園小管理職、学校教育課主監、幼児保育課参事、加配教員	園小接続推進委員会（架け橋期カリキュラム検証について、今年度の取組について）・・・県主査、県指導主事
7月～8月	小学校職員	保育参加
8月27日	小管理職、小学校教員、学校教育課主監、加配教員	園小接続推進委員会（公開研修会指導案検討）・・・県主査
7月・9月・12月・1月	5年生、1年生、5歳児	5・5交流、1・5交流（12月、1月のみ）
10月25日	5歳児担任、1年担任、加配教員	園小接続推進委員会（架け橋期カリキュラム検証）
11月6日	園小管理職、学校教育課主監、幼児保育課課長、加配教員	園小接続推進委員会（公開研修会について）
11月7日	園管理職、園担任、加配教員	園小接続推進委員会（公開研修会指導案検討）・・・県指導主事
11月10日	1年担任、5歳児担任、加配教員	園小接続推進委員会（学習参加、架け橋期カリキュラム検証）
11月13日	園小管理職、3～5歳児担任、1・3・5年担任、加配教員	奥田教授との懇談（保育授業参観を通して）
11月17～27日	小学校職員	園参観
11月28日	園小職員、県内参加希望者	公開研修会・・・大学教授、県主査・県指導主事
12月17日	園小管理職、加配教員	園小接続推進委員会（公開研修会振り返り、今後の取組）
1月26日	園小管理職、園小各担任、学校教育課主監、幼児保育課参事、加配教員	園小接続推進委員会・・・県主査・指導主事（事業取組の振り返り、今後に向けて）
3月初旬	園小管理職、5歳児担任、加配教員	園小連絡会（保育参観、引き継ぎ、スタートカリキュラムの取組について）

(2)加配教員の取組

①保育への参画について

今年度も引き続き主に4・5歳児クラスの保育に参画した。職員会議などを活用して研修を行い、保育に参画する中で学んだことを小学校職員に伝えた。

○関わり方

- ・発達段階を意識(今の育ちと伸びていく姿)
- ・子どもの考えを大切に(つぶやき、思いを生かす)
- ・考え・思いを引き出す、自分の力でできるよう促す声かけや問いかけ
- ・友だちを巻き込んだ関わりを促す
- ・一人の発言を周りの子に広げたり比べたりして、新たな発見につなげる
- ・繰り返し、根気強く試せるように(満足感、やり遂げた経験)

○環境構成

- ・活動内容、活動のあしあとの見える化
- ・発達段階に応じた必要な道具の精選(数や量など)
- ・「やりたい」気持ち←「やりたい」と思わせる環境づくり
- ・友だちの姿を見て遊べる(学べる)環境
- ・自分の(友達)の学びを振り返る時間
- ・五感を働かせる体験

園では、子どもたちが自分で考えどんどん活動していくために、保育者は子どもの様子から絶妙なタイミングで言葉かけをしたり、遊びが発展するように環境を再構成したりしていた。保育者が子どもたちの様子を的確にくみ取っていることが、日々の保育の中で感じられた。子どもたちは、安心できる環境の中で多様な遊びに主体的に取り組んでいる様子が見られた。小学校においても、子どもが「もっとやりたい」とねばり強く学びに向かうためには、心が動く体験が必要である。そして、子どもの学びの様子を的確にとらえ、関わり方を考え、環境を調整していく必要がある。



②架け橋期カリキュラムの実施・検証・改善(資料①②③)

昨年度作成したカリキュラムに取り上げた主な活動の様子や、それを受けてどのように教育活動を進めていくかなど、5歳児担任、1年生担任、保育参事、加配教員が中心になって話し合いを行った。5歳児担任からは具体的な活動の様子だけでなく、どのようなねらいで活動を行っていたのか、その他の活動にどのようにつながっているのかについても話を聞いた。1年生担任は、園での取組をスタートとして、教育活動を計画するように意識した。また、生活科の秋の活動を取り上げ、昨年度の5歳児担任に生活科の授業に参加してもらい、学びのつながりについて検証を行った。

小学校でのスタートカリキュラムに関しても、5歳児担任から5歳児の具体的な活動の様子や生活経験等を聞き、緩やかな時間配分や遊びの中に学びを含んだり、生活科と他教科を関連づけたりするなどの工夫をした。教科の枠組みをはずし、「ゆったりタイム」・「なかよしタイム」・「わくわくタイム」・「ぐんぐんタイム」を設定し、徐々に教科学習である「ぐんぐんタイム」を増やしていくようにした。子どもたちは、園で経験したことを先生に伝えたり、やってみたりして、学習に取り組んでいくことができた。



3 実践事例

(1)互いを知る取組(保育参観・参加、授業参観・参加)

各学期に1回、園小互いに参観し合う週間を設けた。この参観週間は湖西中学校区の各園、小・中学校も設定し、参観し合った。特に指定校園では、「自立心」と「思考力の芽生え」の視点で見取った学びの様子を紙面交流した。また、保育参加では、参加後に子どもたちの様子や日頃の保育について意見交流の時間を設けた。昨年度より一歩踏み込んだ課題等も話し合い、自身の振り返りや多面的な子ども理解につながった。また、他校種で見合うことで新しい発見があり、学びのつながりを意識して保

育・授業を展開していくことにつながった。

(2) 保育・授業改善（資料④⑤⑥）

○保育改善の取組

園では、毎月、運営会議や学年ごとのエリア会議を行い、季節に応じた遊びや教材、さらに発達に応じた遊びのつながりなど保育について話し合い、保育の充実を図ってきた。また、園内研究で全学級公開保育を行ったことで、遊びと遊び・年齢と年齢のつながりなど、学びの連続性を意識した保育に取り組み、保育の改善と充実につながった。さらに「自立心」「思考力の芽生え」という同じ視点で子どもの姿を見取り、話し合うことで、保育の視野が広がり、ねらいや保育内容をより意識して、担当クラスの保育を見直していくことができた。



○授業改善の取組

小学校でも、校内研究に「学びのサイクル」を意識した単元を構想していくことを位置付け取り組んできた。全学年で学びの連続性を意識し、「振り返り・再構築」に力を入れ、次の学習につながるよう考えたり、「やってみたい」が生まれる発問や環境づくりを工夫したりしてきた。園と同じ視点で協議を行い、どのような力をつけてきたのか、今どのような姿を見せているのか、どのようにつながっていくのかを考えていくことができた。そのような中で、「やってみたい」「考えたい」が生まれる環境構成や学習課題の設定の大切さを感じた。

4 研究の成果と課題

【成果】

- ・子どもの様子を見合う取組を行ったことで、子どもの実態を知り、どのような保育や授業を仕組んでいけばよいのかを考えていくことができた。また、この取組は湖西中学校区の園小中＋高一貫教育の取組としても行い、園・小・中で参観し、話し合うことに広げていくことができた。
- ・園内・校内研究を通して、どの年齢も遊びや学びのつながりを意識した保育や授業を考えていくことができた。また、保育・授業について話し合う場が増え、いろいろな見方・考え方を知ることができた。
- ・今年度は、昨年度の5歳児がつけてきた力をもとにスタートカリキュラムを作成し、児童の実態に応じて弾力的に取組を進めたことで、滑らかな接続によるスタートを切ることができた。
- ・園での遊びを通した学びや育ちを知ること、園で培われてきた資質や能力を発揮し、伸ばしていく活動を小学校の生活、学習を通して仕組んでいかなければならないと再確認できた。
- ・教師からの問いかけによって、「自分で」考えようとする姿、「友だちの思いを聞いて」考えようとする姿が学習の中で見られるようになった。
- ・保育者の働きかけや言葉がけによって、子どもたちが安心して、自分の思いを出し、選んだり、決めたり、表現したりして、自分がしたいことにくり返し向かう姿が見られるようになった。

【課題】

- ・どの年齢・学年においても、学びのつながりを意識した保育・授業改善を考えていく必要がある。
- ・友だちと話し合ったり考えたりしながら、自分の考えや思いを深めたり、学習や遊びを調整したりしていく力については、まだ課題が残る。

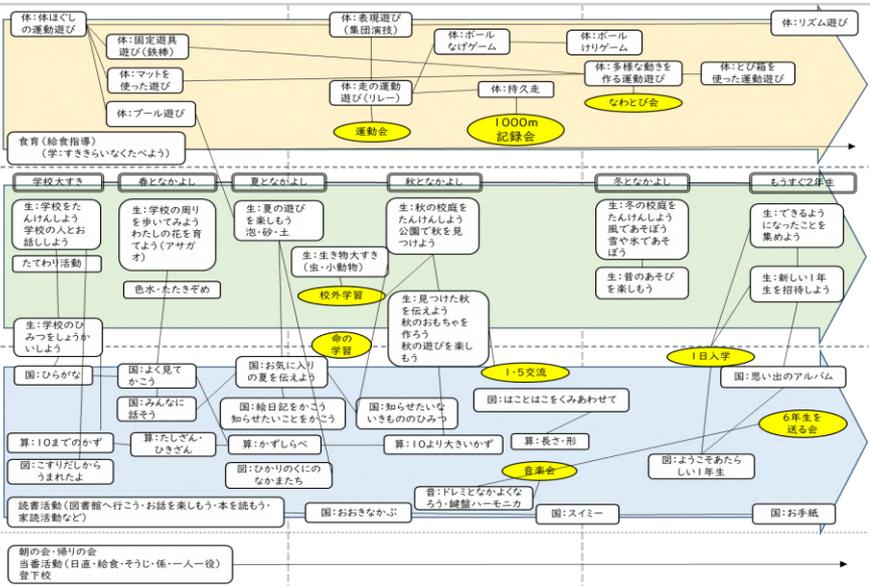
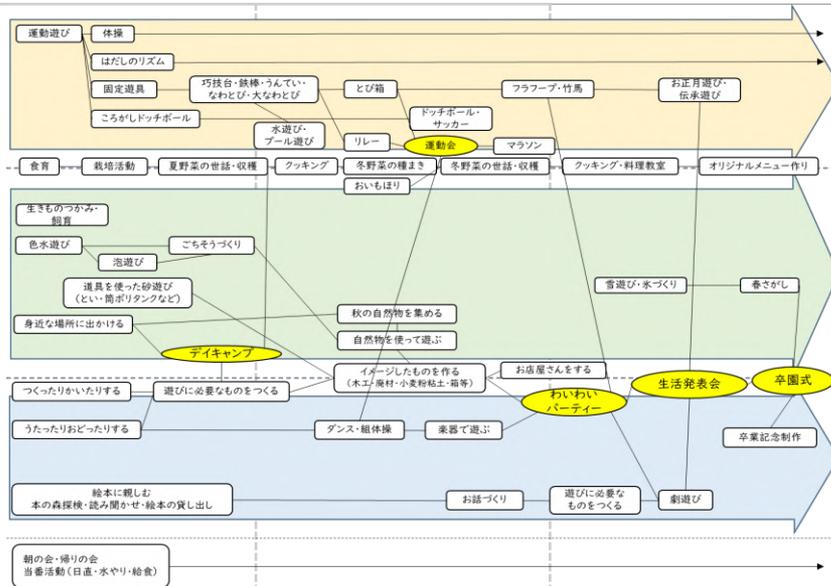
5 今後に向けて

- ・子どもの様子を知り、保育・授業改善に生かすために、湖西中学校区の園小中＋高一貫教育の取組として位置付け、保育参観、授業参観、保育参加を今後も継続していく。
- ・子どもの実態把握から課題を洗い出し、それぞれがどのような取組をしていけるかを話し合うことができる園小職員の関係を持続させていく。
- ・今年度取り組んできたように、どの年齢・学年も途切れない学びを意識して、今後も保育・授業改善に取り組んでいく。

		5 歳児			第 1 学年		
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像		心が動く体験を通して 自分の思いをもち 主体的に取り組む子					
		・人やモノと関わりながら自分で決め、思いや考えをもって取り組む子 ・やってみて、できた、もういっかいとじっくり遊ぶ子			・自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいて考えたりする子 ・知りたい、できるようになりたいという思いをもってねばり強く取り組む子		
幼稚園の終わりに姿をのび育てる	自立心	『やってみよう』『こうしてみようかな』『もっとやってみよう』という意欲をもち、人やモノとじっくり関わろうとする。		『もう1回やってみよう』とくり返しあきらめずに取り組み、『できた』『もっとやってみよう』と満足感や自信をもって生活する。		これまでの経験を生かして、興味をもってチャレンジし、あきらめないでやりとげることの喜びや楽しさを味わう。	
	思考力の芽生え	いろいろな素材や自然物に積極的に関わり、自ら考え、試したり工夫したりする。		友達と思いやアイデアを出し合いながら、考えを深めたり広げたりする。		これまでの経験や友だちの考えをもとに試行錯誤して物事に取り組む。	
大切にしたいこと	環境単元	・子どもが自ら考えられるような様々な道具や素材を用意し、必要な物を選んで使えるような環境を整える。 ・子どもの考えや思いが実現できるように、とことん向かえる環境づくり			学びや成長を実感できる年間掲示物、話し合い活動(ペア・グループ)の工夫、学びの広がりやつながりを生む教材、教具の工夫、園での経験を生かした単元導入の工夫、柔軟な時間設定、発意・構想・構築表現・省察のサイクルを意識した学習活動		
	先生の関わり	・子どもの気付きやつづばきに心をよせ、一緒に考える関わり ・見通しをもち自ら考え、やり遂げる姿を認め、満足感や達成感を味わえるようにする。			一人ひとりのよさやがんばりを認め合える学級作り、園での経験を引き出す言葉がけ、見通しを保持する視覚支援、自分の考えてやってみて「できた」という実感が味わえるように最低限の指示、子ども・環境・学習をつなぐ支援、主体的な学び・再構築を意識した課題設定や発問の工夫		
キーワード		きらきら (心が動く体験)			うきうき (いろいろ考え)		
					どんどん (あきらめないで・ねばり強く・主体的に取り組む)		

主な教育課程・予想される活動

体を使って
自然と関わって
表現して
生活



自然物や素材を使って、自分なりの工夫をしたり、試したりしながら、じっくりと遊ぶことができた。また虫などの身近な生き物に関わり、食べるものや飼いやすい環境を調べて親しんで遊んだ。保育者は子どもたちの気付きやつづばきを十分認めることで、満足感や次の遊びへの意欲につながった。

秋の自然物や身近な素材を使って、ごちそうづくりや制作などを楽しんだ。友達と一緒につくり、役割分担をしたりする姿も多くみられ、遊びの楽しさを存分に味わっているようだった。保育者はイメージを共有しながら遊びがすすめられるように、道具の数を調整したり、思いの違いがあるときにどうするとよいかを一緒に考えたりする援助をした。子ども達の思いから、小さい組さんにお客さんにきてもらうことになり、より満足感や達成感が味わえた。

園で経験したことを生かせるような学習の場を設定することで、「やってみよう」という興味ややる気を引き出すことができた。友だちとのかかわりを通して、工夫したり試行錯誤したりする姿が見られた。次の「やってみよう」「考えてみたい」につながる活動を意識した。

1学期に学んだことを生かしなが、さらに「もっとこうしてみたい」という思いをもって学習に向かうことができた。グループで話し合い、試行錯誤しながら取り組む中で、生活科の学習を中心に形になっていくことが自信につながっている。

振り返り (R7)

スタートカリキュラム作成について

①年長の子ども達が特に好きだったこと、興味をもっていること

室内遊び	ドッチボール 空き箱制作 ごちそうづくり(秋の木の実や小麦粉粘土) こままわし 竹馬 ハンドベル
屋外遊び	生き物探し、飼育 色水 泡 砂遊び ごちそうづくり(草花や果物の皮) ドッチボール
その他	はだしのリズム 運動遊び(とびばこ、なわとび、鉄棒) 生き物の飼育 園周辺や薬園神社へ散歩 びわ湖で散策

②期待する子ども像に関わって子どもたちの実態

〈朝の会〉

- ・友達と一緒に日付け、欠席者の確認をする(当番活動)
- ・日付、天気の確認
- ・出席確認の際、一人一人が自分の名前を言う。休みの子を把握し、出席人数、欠席人数をみんなで知る。

〈活動・遊び〉

- ・友達と一緒に共通のイメージをもち、一緒につくったり、アイデアを出し合いながら遊びをすすめていくとする
- ・遊びに必要なものを自分でつくったり、遊びの場を整えたりしたりして遊ぼうとする
- ・それぞれがやりたい遊びを見つけ、遊び込んだり、遊びが発展したりして、友達と一緒に誘い合って楽しむ。また、どうしたらもっとおもしろくなるかということを考え、試したり工夫したりする。遊びに必要なルールは、遊んでいく中で出てきた思いや意見を出し合い、どうするとより楽しめるのかを考えながらつくっていく、楽しむ

〈給食〉

- ・盛り付けや配膳を自分たちで行う
- ・栄養素別に食材を分類し、体と食べ物の関係について知る(げんきっずをする)
- ・苦手なものがあると、自分で保育者に伝え、量の加減をする

〈帰りの会〉

- ・遊びや活動の振り返りをしたり、今後の活動や翌日の持ち物の確認をしたりし、見通しをもち生活習慣の自立ができるようにする
- ・経験したことや、伝えたいことを発表する子もいれば、友達の話を聞くだけの子もいる
- ・その日の印象に残ったことや、できたこと、感じたことを伝える。疑問に思ったことや、困ったことがあると、全体で共有し、考えたりする場を大切にしている

〈生活〉

- ・絵表示や時計に印をつけ、一日の流れに見通しをもって過ごす
- ・身のまわりのことを進んで行いが、個人差もあり、個別での援助や声かけが必要な子もいる
- ・身のまわりのことは基本的には自立している子が多い。雑になる子もいるので、その都度声かけが必要

1年生の期待する子どもの姿

楽しみながら、友だちや先生と関わり、「やってみよう」とする

思い、考えをふくらませ、学ぼうとする

安心して、自分を発揮できる

それぞれがやりたい遊びを見つけ、遊び込んだり、遊びが発展して友だちと誘い合ったりして楽しむ姿

遊びの中で出てきた思いや意見を出し合い、より楽しめるように遊びに必要なルールを考える姿

経験したこと、できるようになったこと、疑問に思ったこと、困ったことなどを全体で共有し、考える姿

今後の活動や翌日の持ち物を確認するなどして見通しをもって生活する姿

5歳児の姿(10の姿をふまえて)

新旭南小学校 スタートカリキュラム

週案 No.2

月日	4月14日		4月15日		4月16日		4月17日		4月18日	
曜日	月		火		水		木		金	
登校後	ゆったりタイム 「朝のミッション」 ①荷物のかたづけ ②提出物を出す ③へやあそび(絵本、お絵かきなど)		ゆったりタイム 「朝のミッション」 ①荷物のかたづけ ②提出物を出す ③へやあそび(絵本、お絵かきなど)		ゆったりタイム 「朝のミッション」 ①荷物のかたづけ ②提出物を出す ③へやあそび(絵本、お絵かきなど)		ゆったりタイム 「朝のミッション」 ①荷物のかたづけ ②提出物を出す ③へやあそび(絵本、お絵かきなど)		ゆったりタイム 「朝のミッション」 ①荷物のかたづけ ②提出物を出す ③へやあそび(絵本、お絵かきなど)	
1	学	なかよしタイム 「朝の会」 あいさつ 健康観察 うた よみきかせ 今日のよてい	学	なかよしタイム 「朝の会」 あいさつ 健康観察 うた よみきかせ 今日のよてい	学	なかよしタイム 「朝の会」 あいさつ 健康観察 うた よみきかせ 今日のよてい	学	なかよしタイム 「朝の会」 あいさつ・健康観察・うた・よみきかせ・今日のよてい	学	なかよしタイム 「朝の会」 あいさつ・健康観察・うた・よみきかせ・今日のよてい
	国		国		国		国	ぐんぐんタイム 線あそび	国	なかよしタイム 「 をしよう」
2	図	なかよしタイム 「すきなもののいっぱい」 すきなものをかこう	体	「たいそうふくにきがえよう」 たいそうふくのきがえかたとかたづけ方	図	なかよしタイム 「 をしよう」	国		体	「たいそうふくにきがえよう」 たいそうふくのきがえかたとかたづけ方
	学	わくわくタイム 「小学校のミッションにチャレンジ!」 ①学校のやくそく ②休み時間のすごしかた	体	ぐんぐんタイム 「たのしくあそぼう」 ・ならびっこ ・遊具たんけん	図	ぐんぐんタイム 「じぶんのかおをかこう」	国	ぐんぐんタイム 「なかよしのみち」	体	ぐんぐんタイム 「たのしくあそぼう」 ・ならびっこ ・遊具たんけん
長休み										
3	国	ぐんぐんタイム 「かいてみよう」 めいしをつくろう	生	わくわくタイム 「小学校のミッションにチャレンジ!」 ①学校をあるいてみよう(だれがいるかな、なにがあるかな)	算	ぐんぐんタイム 「なかよし」 なかまあつめをしよう	算	ぐんぐんタイム 「なかよし」 くらべよう	生	ぐんぐんタイム 「いくぞがっこうたんけんたい」
	図	わくわくタイム 「 」給食の先生のお話	生		算		算		生	
4	学	なかよしタイム 「楽しいきゅうしょく」 ・給食の時間のやくそく ・みじたく ・配膳のしごと ・楽しくたべよう	学	わくわくタイム 「小学校のミッションにチャレンジ!」 ①そうじのしかた(ぞうき)	国	ぐんぐんタイム 線あそび	国	ぐんぐんタイム ひらがなをかこう	生	なかよしタイム 「楽しいきゅうしょく」
	学		学	なかよしタイム 「楽しいきゅうしょく」 ・みじたく ・配膳のしごと ・楽しくたべよう	学	なかよしタイム 「楽しいきゅうしょく」 ・みじたく ・配膳のしごと ・楽しくたべよう	学	なかよしタイム 「楽しいきゅうしょく」 ・みじたく ・配膳のしごと ・楽しくたべよう	学	
給食	手洗い・消毒→みじたく→配膳→減らす・ふやす→しっかり食べる→かたづけ									
昼休み	なかよくあそぼう									
そうじ	ぞうきんマスターになろう					ぞうきんマスターになろう				
5	音	ぐんぐんタイム 「たのしく歌おう」 ・校歌 ・季節の歌?	生	ぐんぐんタイム 「いくぞ!がっこうたんけんたい」 ・見つけた人、見つけたことをはなそう	国	ぐんぐんタイム 「おはなしたくさんききたいな」 図書室へいこう	道	ぐんぐんタイム 「たのしいがっこう」	音	ぐんぐんタイム 「うたっておどってなかよくなるろう」
	学	帰りの用意	学	帰りの用意	国	- 9 -	学	帰りの用意	学	帰りの用意
帰りの会	今日、一日をふりかえろう									
下校	安全に気をつけて帰ろう									

5歳児

第1学年

4・5・6・7

8・9・10・11・12

1・2・3

4・5・6・7

心が動く体験を通して 自分の思いをもち 主体的に取り組む子

期待する子ども像

・人やモノと関わりながら自分で決め、思いや考えをもって取り組む子
・やってみたい、できた、もういっかいとじっくりと遊ぶ子

幼稚園の終わりにまで育ててほしい姿

自立心

『やってみたいな』『こうしてみようかな』『もっとやってみよう』という意欲をもち、人やモノとじっくり関わろうとする。

思考力の芽生え

いろいろな素材や自然物に積極的に関わり、自ら考え、試したり工夫したりする。

『もう1回やってみよう』とくり返しあきらめずに取り組み、『できた』『もっとやってみよう』と満足感や自信をもって生活する。

友達と思いやアイデアを出し合いながら、考えを深めたり広げたりする。

幼稚園の終わりにまで育ててほしい姿が見られた子どもの学びの姿

5歳児 ぽろぽろ 4月末～5月末 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

5歳児 ぽろぽろ 11月 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

5歳児 ぽろぽろ 12～2月 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

5歳児 ぽろぽろ 4月下旬～6月上旬 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

5歳児 ぽろぽろ 11月上旬～ 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

5歳児 ぽろぽろ 12月～2月 【新旭南小学校区】園名(静里なのはな園)

●ねらい 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●保育の視点 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

●子どもの姿 (●意欲) (●保育者の関わり) ●自立心 ●思考力の芽生え

【子どもの姿】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【保育者の関わり】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【自立心】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【思考力の芽生え】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

【*読みとり・考察】 友達と一緒に遊ぶ中で、自分なりの遊びを生み出し、楽しむ。【幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】

保育者との信頼関係に 支えられた生活

・ねらい 用具や素材を選んで使い、試したり工夫したりしながら遊ぶ。

・保育の視点

必要に応じて選んだり、試したりできる素材や用具が準備されていたか。
また、そのための援助があったか。

〈○子どもの姿〉

〈●環境〉

〈◎保育者の関わり〉

『幼児期の終わりまでに
育てほしい姿』

- ・自立心
- ・思考力の芽生え

【金槌と釘を使う。】

○夏野菜の看板が必要だと感じ、釘と金槌を使って、木の板と角材でつくる。

●初めて金槌を使う子もいるので、安全に配慮し保育者が傍にいたり、広い場所を準備したりする。

◎釘を打つ楽しさや、木の板と角材が釘によって、ついた嬉しさに共感していく。

【どんぐりコースターをつくる。】

○板にたくさん釘を打つことを楽しむ。

○どんぐりがどう転がっていくのか、見たり考えたり試したりする。よりおもしろくなるように、輪ゴムを使って転がるコースをつくらしたり、当たりや点数のカップをつけたりする。

●いろいろな大きさのどんぐりや、カップ・輪ゴム・マスキングテープ等を準備しておく。

◎子ども達のアイデアや発想を大切にしながら、一緒に遊ぶ中で実現できるように、共に考えたり、試したりする。

【友達と一緒につくる。】

○大きな板を使って、友達と一緒にどんぐりコースターをつくる。

●3～4人でつくれる大きさの板を準備しておく。

◎子ども達に思いの違いがある時には、一人一人の思いを聞きながら、必要に応じて、相手に知らせたり、互いの思いをすり合わせたりし、納得してつくれるようにする。

【小さい組さんに遊んでもらう。】

○スタートや当たりの箇所などを伝えたり、小さい組さんの様子に合わせて、転がりやすいどんぐりを渡したりする。

◎どう関わってよいかわからない子には、関わり方を保育者と一緒に考えたり、伝えたりしていく。

◎自分達でつくったものを小さい組さんに遊んでもらえた嬉しさに共感する。

①手づくりの看板をつくらう！



②これで何の野菜か、わかりやすくなったなあ♪



③ここに釘打ったら、どう転がるかな？



④わあ！下まで転がった！



⑤ほくはここからスタートにするわ！〇〇くん、そっちつくってくれてありがとう！



⑥小さい組さん、いっぱい遊んでくれて嬉しい！



〈*読み取り・考察〉

*夏野菜を育てる中で、何の苗かわからなくなり、必要性を感じて、夏野菜の看板をつくることになった。金槌や釘の使い方をクラス全体に周知できるきっかけになった。

*最初は小さな板を使い、一人でどんぐりコースターをつくることで、満足感が得られた。またどんぐりの大きさや形によって転がり方が違うことを発見したり、輪ゴムを使ってコースを変える等の工夫が実現しやすかったりした。

*機会をみて3～4人でつくれる大きさの板を準備したことで、友達との関わりが生まれ、友達のしている工夫に気付いたり、より楽しくなるように考えられたりした。

*小さい組さんの「大きい組さんすごい！」「おもしろい！」といった感想を聞き、満足感や達成感を味わうことができた。

保育者との信頼関係に 支えられた生活

・ねらい 秋の自然物や材料、用具を選んで使い、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ。 『幼児期の終わりまでに育ててほしい姿』

・保育の視点 さまざまな自然物や素材を使い、試したり工夫したりしながら、遊ぶことができる環境の構成や保育者の援助であったか。

- ・自立心
- ・思考力の芽生え

〈○子どもの姿〉 〈●環境〉 〈◎保育者の関わり〉

【小麦粉粘土で遊ぶ。】

- 粉や水の量を調整しながら、好みの柔らかさの小麦粉粘土をつくる。
- 小麦粉粘土の感触を味わい、イメージしたものやごちそうをつくる。
- 水の量や粉の量など、調整できるように水差しやおたまなど加減ができる道具を用意しておく。
- 小麦粉と水の量で柔らかさが変わることへ気づき、思い通りの柔らかさの小麦粉粘土がつかれるよう、場所やボウルの数は十分に用意しておく。
- ◎一人一人の気づきやつづやきに共感したり、他児に知らせたりして友達同士をつないでいけるようにする。

【野菜や果物の皮、秋の自然物を使ってごちそうをつくる。】

- 野菜や果物の皮、秋の自然物を使い、切ったり混ぜたり飾ったりしてごちそうをつくる。
- 自分のイメージに合う材料・用具を選んで、工夫してつくる。
- 本物のごちそうをイメージして、試したり工夫したりしてつくれるよう、いろいろな種類の材料や用具を用意しておく。
- 包丁は安全に使えるよう、一本ずつ箱に入れておいたり、使う場所を別に設けたりする。
- ◎一人一人の工夫を具体的に認めたり、周りに知らせたりしながら、友達の姿に目を向け、工夫やよいところを互いに気付いたり、認め合ったりできるようにしていく。

②去年もしたことある！
ちょっとずつ水を入れるん
やで。

③べちゃべちゃになる…水が多かった
のかな？粉を足してみよう！

⑥包丁で細かく刻んで、
うどんの具にしよう！



①粉から粘土をつくっ
てみよう！

④まとまってきた！
めっちゃ伸びる～！

⑤他の材料を組み合わせたら、
本物のごちそうみたいになるかも！

⑦完成！誰かお客さんに食べて
もらいたいな～

〈*読みとり・考察〉

「ちょっとずつ水を足すんやで」と小麦粉粘土の作り方が分かっているにもかかわらず、やってみるとうまくいかないことも多く、初めはべちゃべちゃになる子どもも多かった。どんな柔らかさの小麦粉粘土にしたいのか、どうしたらつくれるのか投げかけたり、友達の様子を見て試す中で、次第に必要な水と粉の量を知る様子がみられた。自分のつくったものと友達のつくったもので柔らかさが違うことに気付いたり、ごちそうづくりを楽しむ中で友達のつくったものにも興味を示し、認め合う姿もあった。野菜の切り方では「お母さんこうやって切ってた」と思い出し、真似て切るなど生活が遊びの中でいきている場面もみられた。

保育者との信頼関係に 支えられた生活

【単元の工夫】

○集めてきた秋の素材(どんぐりやまつぼっくり、落ち葉)を身近な場所に置いたり、秋の素材を見つけた場所を明記したりして子どもたちが秋の素材にじっくりと関われる環境を設定する。

○一人一人が秋の素材を使った遊びを十分に楽しめるようにする。

○「素材を使った遊びを楽しむ→遊び道具や遊び方を工夫する→友達や招待したい人と遊びを楽しむ」ことができるように振り返りの時間を大切に、次の活動を考えていく時間とする。

【単元目標】

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり秋の自然物を利用した遊びの面白さに気づいたりしてみんなと楽しみながら遊びを創り出そうとすることができるようにする。

【先生の関わり】

□振り返りで次どうしたいかや困ったことなどを友だちと共有し、次の活動につながるようにする。

□子どもたちが遊びや遊び方を工夫していけるように道具や素材を準備する。

□子どもたちが自分のやってみたいを達成しようと試行錯誤する姿を見守り、どうしたいのかを尋ねながら一緒に考えたり作ったりする。

期待する子ども像
・自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいて考えたりする子
・知りたい、できるようになりたいという思いをもってねばり強く取り組む子

②運動場や公園に行きたいな。どんぐりや生き物見つけられるかな。

⑦いろんなものがあるんだ。もっと集めてみたらどうかな。

③どんぐりや木の葉を見つけたよ。きれいな色の葉っぱもひろってきたよ。虫も見つけたよ。バッタやカマキリをつかまえたよ。

④いろんな大きさのどんぐりがあったよ。葉っぱの色もいろいろだね。

1.秋はどんな季節かな？秋を探そう。



①運動会の練習は暑かったのに、なんか涼くなってきたなあ。秋ってどんなものがあるのかな？

⑤見つけた秋を教えてあげたいな。

⑧どんぐりがいっぱいになってきたな。どれくらいあるんだろう。数えたいな。ころがしたらおもしろいかな。

2.見つけた秋を伝えよう。



⑥絵にかきたいな。大きなどんぐり見せたいな。

3.秋の遊びを楽しもう。

⑪○○くん、おんなじの作っている！どうして作るか教えてもらおう。一緒に作ったら、たくさん作れた！

⑫うまく作れた。みんな遊びたいな。みんなが作ったものも遊んでみたいな。

4.秋の遊びに○○を招待しよう。



⑩もっと高いコースターにしたいな。くっつけるにはどうしたらいいかな。倒れそうだな。もうちょっと材料が欲しいな。

⑭○○さんたちを招待して、楽しく遊ぶためにどうしたらいいかな。

⑨どんぐりコースター作りしたいな。松ぼっくりけん玉もいいな。どんぐりに顔をかいたらかわいいよね。

⑬とても楽しかったので○○さんたちを招待したいな。

【考察】

□自分たちの作りたいおもちゃをグループで話し合い、試行錯誤しながら進化させていく過程が見られた。

□園の子どもたちを招待するためにどうしたらわかりやすく伝えられるか、喜んでもらえるかをグループで考えて工夫する姿が見られた。

【単元の工夫】

○学習に入る前(第0時)に数種類の箱を準備し、自由に触れられる場を作る。就学前の箱制作等を想起しながら箱を使った自由な遊びができるようにしておく。

○ペア、グループ、全体で伝え合う場を設定する。グループでの作戦タイムを仕組む。「高く積むために」という同じ目的に向かってどうしたらいいかを相談する。その中で、箱の形や箱の積み方に対する気づきをグループから全体に広げていくようにする。

【先生の関わり】

□作ったものから、箱の形に着目する言葉がけをする。

□次の「やってみたい」「考えてみたい」につながる思いを出していく。次時の内容や活動へのつながりを意識した言葉がけをする。

・自分の思いを伝えたり、友だちの思いをきいて考えたりする姿
・知りたい、できるようになりたいという思いをもって、粘り強く取り組む姿

⑥高く積むには横向きかな？縦向きかな？どうしたら高く積めるかな。大きな箱から積んだらうまくいくかな。

⑤みんなで高いタワーをつくらう。高く積むにはどうしたらいいのかな。

⑩四角い箱とところがる筒にわけられるかな。

⑨箱がたくさんあったから、全部分けよう！

⑮写し取った形を組み合わせたら、車みたい。家もかけた。

⑭箱型と筒型は同じかな。四角や丸がかけるかな。

3.かたちをうつしてえをかこう

2.にているかたちをあつめよう

1.はこをつんでいろいろなものをつくらう

はこをたかくつみあげてみよう※本時

⑦大きな箱を下に積んで、柱みたいに箱を縦にしたら高くなった！！

①園で、箱を使って、すべり台や車を作ったよ。たくさんの箱がある。もっと大きなすべり台つくりたいな。

②すべり台を作るにはどんな箱を使えばいいかな。大きな箱を探そうかな？高い箱もつかえるかな？



⑪4つのグループに分けられた。これなら箱がさがしやすい。

⑧細長い箱を探すのが大変だったから、似ているものでかためておきたいな。仲間分けをしよう。

⑫見る方向によって形がちがうよ。写してみたいな。

⑯車は箱型と筒型を写してできたよ。もっといろんな絵をかきたいな。

⑬いろんな向きで箱を写してみよう。

④大きい箱を集めて、次は高いタワーを作ってみよう！どこまで積めるかな。

【考察】

□園で遊んでいた箱積み遊びの延長から少しずつ発展させ、箱の特徴について子どもたちの言葉で算数の言葉へと変換し、小学校の学習につなげることができた。

□グループでの話し合いでは、自分の考えを相手に伝える姿ややってみて失敗から学ぶ姿などが見られ、「次はこうしたらいい」と思考力を働かせ、友達のアドバイスを聞いて考えを広げる姿がみられた。

□楽しみながら学ぶというサイクルを授業に取り入れることができた。

愛荘町立秦荘幼稚園・愛荘町立秦荘東小学校

研究主題：心揺さぶられる学びを通して、思いや考えを伝え合う子どもをめざして
～「やってみたいな できたよ みてみて きいて」「それいいね」～

1 主題設定の理由

本地域の子どもたちは、与えられた課題には真面目に取り組むことができる一方で、課題に対して主体的に実践する力や、自分なりの思いや考えを相手に分かりやすく伝える力、初めてのことや苦手なことに向かおうとする力に弱さが見られる。そこで、子どもたちの「やってみよう」「やってみたい」が高まるような遊びや学習を考え、幼小接続を通して思いや考えを伝え合い、子どもたちの学びたいという意欲を伸ばすような保育・教育の実践をしたいと考えた。

研究2年目となる今年度は、子どもたちの課題を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」の「自立心」「言葉による伝え合い」に焦点を当て、さらに幼小連携・接続を校内研究と関連付けることで、全校体制で取り組み、保育や授業の質を高めたいと考え、研究を進めた。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
昨年度3学期	全教職員	・合同研修会で来年度に向けての話し合い
4月 2日	幼小担当者・5歳児担任	・加配教員の幼稚園での勤務に向けた打合せ
4月11日	幼小管理職・幼小担当者	・幼保小接続連絡協議会（顔合せ、打合せ）
5月22日	1年・元5歳児担任	・幼保小連絡協議会（1年公開授業、情報交流）
6月 4日	1年・5年・幼小担当者	・授業見学（音楽集会練習、学校探検）
6月16日	幼小担当者	・カリキュラム編成会議
6月20日	幼小全職員	・第1回合同研修会 1年・5歳児クラス公開（大学教授、指導主事の講話、グループ研究協議）
7月10日	幼小担当者	・カリキュラム編成会議
7月23日	幼小全職員	・第2回合同研修会（夏休み）
9月25日	小全学年・幼担当者 4、5歳児担任	・公開授業、保育の事前検討会 公開保育、公開授業（県主査・指導主事の訪問）
10月15日	小全職員・5歳児担任	・授業見学（運動会練習見学、中休み校庭遊び）
11月 7日	担当教職員	・公開研修会事前打ち合せ
11月14日	全教職員、 県内参加希望者	・公開研修会、公開保育、授業、研究協議（大学教授、指導主事の指導講話）
11月18日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会
11月28日	幼小管理職・幼小担当者	・公開研修会の意見交流会、振り返り
12月 5日	1年・5歳児担任	・幼保小交流会（振り返り、次回打合せ）
1月 9日	幼小全職員	・第3回合同研修会（幼稚園の環境構成を学ぶ）
1月30日	幼小担当職員	・園内研修（3歳児）
2月 3日	1、5年・5歳児担任	・幼保小交流会、5・5交流会打合せ
2月 9日	1年、5歳児担任	・幼保小交流会
2月12日	幼・小学校関係職員	・入学説明会、5・5交流会
3月予定	研究推進委員会	・接続カリキュラム編成
3月予定	5歳児担任・小担当者	・幼保小連絡会（新1年生情報交流）

(2) 加配教員の取組

◆保育への参画（保育の準備・打ち合わせについて）

年間を通して、秦荘幼稚園に週 15 時間（火・木）勤務し、主に 5 歳児クラスの保育に参画した。今年度、幼稚園では年齢の枠にとらわれず、縦のつながりを意識した活動が行われ、子どもの育ちの連続性を実感した。

幼稚園教員と共に保育準備や活動支援を行う中で、特に「見守り・待つ・気付かせる」関わりの大切さを学び、子どもが自ら気付くことが学びにつながると実感した。この学びを小学校でも生かせるよう、研修や学びの機会を増やした。

◆架け橋期カリキュラムの作成において

昨年度作成した架け橋期カリキュラムをもとに、1年生・5歳児クラス担任、園の主任、加配教員が中心となり作成を進めた。本地域の子どもたちは、与えられた課題には真面目に取り組むことができる一方で、課題に対して主体的に実践する力、自分なりの思いや考えを相手に分かりやすく伝える力、初めてのことや苦手なことに向かおうとする力に弱さが見られることから、重点とする「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を「自立心」「言葉による伝え合い」の2つに絞り、「やってみたいな できたよ みてみて きいて」「それいいね」が実感できる活動につながるよう、各校園それぞれの良さを生かしながら作成を進めた。

小学校では、園からのスムーズな移行を意識し、1校時（40分）の枠にとられることなく、子どもたちの様子を見ながら、園での時間の流れに合せた活動を取り入れることで、学校生活に慣れ、落ち着いて学習に向かうことができた。これからも幼児期に培った力をもとにして、小学校生活につなげていけるよう指導内容や学習方法を工夫していきたい。また、全ての教職員で架け橋期カリキュラムを共有し、子どもの育ちや実態に合っているかなど検証と改善を繰り返す必要がある。

3 実践事例

◆合同研修会の実施◆

幼稚園3歳児から小学校（低学年・中学年・高学年）までの学びと育ちの連続性を大切にするため、発達段階に応じた「めざす子どもの姿」を設定した。幼児期から小学校段階へと円滑につながるよう、年齢や学年ごとに区切るのではなく、子ども一人ひとりの育ちを縦につなぐ視点を重視し、保育・授業において共通して大切にしたい姿を明確にした。

特に、主体的に活動に取り組もうとする力である「自立心」と、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝え合う「言葉による伝え合い」を重点として位置付けた。

「めざす子どもの姿」を共有することで、幼稚園と小学校の教職員が子どもの育ちを同じ視点で捉え、日々の保育や授業の中で子どもの姿を見取り、支援につなげることができると考えた。また、発達の段階に応じて求められる力を段階的に積み重ねていくことで、幼児期に培った力を基盤とし、小学校以降の学びへと無理なくつなげていくことをねらいとした。

その具体的な取組として、合同研修会を年間3回実施した。1回目の6月20日の合同研修会では、幼小教職員、びわこ学院大学の中井教授、県指



【砂場で遊ぶ年長】

導主事にも幼稚園と小学校の保育・授業を参観していただいた。中井教授の講話では、5歳児が砂場で遊ぶ様子に着目し、砂場に水を溜めたいがなかなか溜まらず、どうすれば思うようになるか、友だちと一緒に試行錯誤しながら、様々な方法を試す中で会話が生まれ、遊びの中に学びがあること、言葉による伝え合いが自然とでき、環境構成が整っているからこそ、「～したい」という気持ちが芽生えるのだということをお話しいただいた。県指導主事からは、当日の子どもたちの活動をぐるぐるシートにまとめて、わかりやすく伝えていただいた。

小学校の教員からは、「子どもたちの学びを共有することができた。」「育ちのつながりが実感できた。」という感想があり、遊びが学びにつながっていることが実感できた。

2回目は、夏休みに実施した。「自立心」「言葉による伝え合い」に焦点を当て、1学期の子どもたちの様子を話し合った後、子どもたちの姿から、良さや課題を整理した。良さを生かし、課題の改善に向け、2学期以降の保育、授業の方向性を共有することができた。

3回目は、1月9日に「幼稚園の環境構成を探る」ことを目的とし、小学校の全教職員で幼稚園に出向いた。グループごとに参観して見つけた環境構成について、全体で交流した。小学校にも取り入れたい要素が多数あることに気付くことができた。

また、町全員研修会において取組について発表の機会があり、幼小接続・連携の研究成果について、町内の保幼小中全体に発信することができた。

◆交流会の実施◆

子どもたちの交流は、接続カリキュラムを作成する中で、幼稚園・保育園・小学校に共通する行事に着目し、それぞれの行事に合わせて計画・実施した。

1学期は、6月の音楽集会の練習を幼稚園・保育園の園児が見学し、その後、校舎内の学校探検を行った。1年目は加配教員が中心となって学校を案内していたが、2年目は、1年生が、生活科の学校探検を通して学んだことを生かし、園児と手をつないで校舎内を案内し、運動場では遊具の遊び方を優しく教える姿が見られた。

2学期は、10月に小学校の運動会の練習を見学した。さらに11月には、年長の時に小学校の秋祭りに招待してもらった経験から、今年は自分たちのお店に年長児を招待したいという思いをもち、秋祭りを開催した。秋祭りの後には、幼保小の職員で振り返りの場を設け、3学期の交流の在り方についても話し合った。また、別の日には、園児が小学校まで散歩として歩いて来校し、日常的な関わりをもつ機会となった。

3学期は、幼保小でかたるを一緒に作って遊ぶ活動を計画しているほか、小学校入学説明会（1日入学）に合わせて、5年生との「5・5交流」も予定している。



【音楽集会见学】



【秋祭り(幼保小交流会)】

4 研究の成果

今年度も「めざす子どもの姿」を基盤として、幼稚園と小学校がそれぞれの教育のよさを理解し合うことを大切にしながら研究を進めた。保育・授業の参観や協議を重ねる中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を踏まえ、幼小で共通して「めざす子どもの姿」や、その育ちの過程についての認識を共有することができた。

さらに、加配教員が保育に関わり、子どもと共に活動することで、幼児期の遊びに含まれる学びを具体的に捉え直すことができ、その学びを小学校教育へどのようにつなげるかを考える視点が明確になった。その結果、「自立心」や「言葉による伝え合い」を意識した環境づくりや保育・授業改善につながり、「めざす子どもの姿」の実現に向けた保育・教育の質の向上を図ることができた。

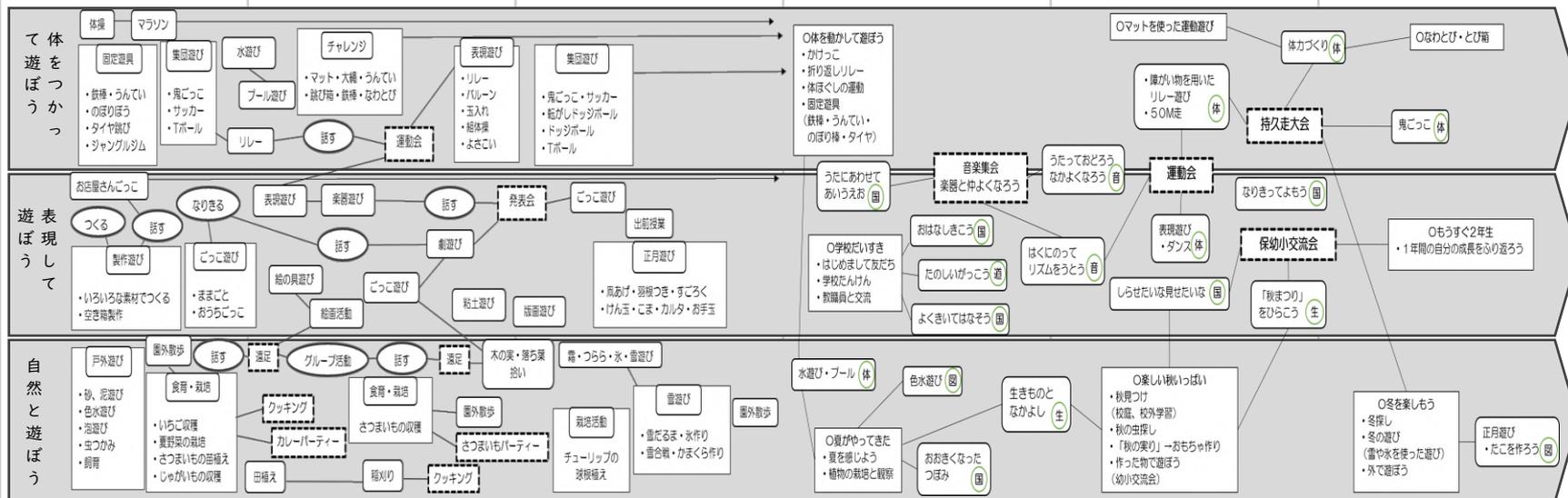
5 課題と今後に向けて

本研究を通して、幼稚園と小学校が「めざす子どもの姿」を共有し、幼小接続の視点で保育・教育を進めることの大切さを確認することができた。一方で、実践の広がりや継続性の面では、学年や教員によって取組に差が生じるという課題も見られた。また、幼児期の遊びに内在する学びを小学校の授業に十分に生かし切れていない場面もあり、さらなる工夫が必要である。

今後は、「自立心」や「言葉による伝え合い」を柱とした「めざす子どもの姿」を全教職員で継続的に共有するとともに、近隣の保育園にも参画を呼びかけ、幼保小が一体となった連携体制の構築を目指したい。その上で、日々の保育や授業の中で子どもの姿を丁寧に見取りながら、指導内容や支援の在り方を検証・改善し、幼児期に培った力を小学校以降の学びへとつなげていく取組を継続して進めたい。

		5 歳児			第 1 学年			
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	
期待する子ども像								
心を揺さぶられる学びを通して、思いや考えを伝え合う子どもをめざして								
姿で幼児期の終わってほしい	自立心	5歳児になった喜びを感じ、遊びや活動に意欲的に参加をしようとする。	自分なりに目的をもって取り組み、やり遂げる喜びを味わう。	意欲的に取り組み、充実感や満足感を味わいながら自信をもって行動しようとする。	これまで経験してきたことを生かし、新しい環境や学習に自ら関わろうとする。	自分なりに考えたり、試行錯誤したりしながら、目的に向かって繰り返し取り組もうとする。	「できた」経験をもとに見通しをもち、自信をもってチャレンジし続けるようにする。	
	言葉による伝え合い	自分の思いや感じたことなどを言葉で伝えたり、友達の思いを聞いたりする。	自分の思いや感じたこと、経験したことなどを伝えたり、友達の思いに気付き共感したりする。	友達と一緒に思いや考えを出し合い言葉のやりとりを楽しみながら、遊びを進める。	友だちと関わりを通して、相手の話を聞き、自分の思いや考えを伝えようとする。	読書活動を通して、豊かな言葉(語彙)を身につけ、友だちと話す中で互いの思いや考えを伝えたり認めたりする。	相手の意見を受け入れながら聞き、自分の思いや考えを伝えられる。	
	環境単元	・自らやってみいたいなど思えるような環境の工夫。 ・やってみいたいなど思えるような素材や道具の準備。 ・友達と思いや考えを共有できる場の設定。 ・遊びが継続できる場の設定。				・圖で経験してきたことを生かせるような単元構成。 ・「やってみいたい」など思えるような単元のゴールを設定。 ・自分の考えを友だちと伝え合える雰囲気づくり、グループ活動の工夫。		
大切にしたいこと	先生の関わり	・子ども一人一人が安心して自分の思いを話せるよう関わる。 ・子どもの「やってみいたい」の思いに寄り添い、きっかけをつくったり見守ったりする。 ・友達と思いや考えを共有できる時間や場の設定。				・子どもたちが気軽に話せる雰囲気づくり。 ・一人ひとりの思いを大切にしながら、友だち同士をつなぐ支援。 ・「やってみいたい」など思えるような学習を設定し、教師も楽しむ姿を見せる。		
	キーワード	「やってみいたいな できたよ みてみて きてて」 「それいいね」						

主な教育課程・予想される活動



朝の会・帰りの会・振り返り活動・読書・給食・あそび・当番活動・そらじ・時間の意識・トイレや手洗場の使い方・身の回りの整理整頓 (幼稚園) → (小学校) 幼稚園から継ぎ当番・係り活動・学習とつながり

振り返り

・連続したことに喜びを感じ、身の回りのことに意欲的に取り組んだり、年少児、年中児の事を気に掛けたりする姿が見られるようになった。
・遠足のグループ活動やクラスの決めた事を話し合う時に、教師も一緒に入り、子どもを思いを受け止めて整理をし、思いの伝え方を知らせるようにしたことで、友達に対して意欲的に気持ちを支える姿が見られるようになった。

・植物のチャレンジカードに取り組んだことで「明日はこうしたい」「ボールスキップが出来るようになった」という目的をもって意欲的に取り組む姿が増えた。練習してできるようになったことで自信につながり、やり遂げる楽しさを感じた。
・遊びの振り返りの時間では自分の思いを友だちに伝える時間を大切にできた。発表会の劇の物語を作る時には「こうしたい」と自分の思いをクラスの友達に積極的に伝えたり、友だちの思いを受け取ったりして、創り上げる楽しさを感じることができた。

・新しい環境に慣れ、園で培ってきた力を生かして、やるべきことが少しずつ自分から主体的に出来るようになってきた。
・生活科の学校探検では、小学校の先生と仲良くなり、休み時間に友達と先生を探したり、上級生に手伝ってもらったり、楽しみながら活動することができた。
・話し始める時に会話を送ると、聞く姿勢は身についてきているが、グループでの話し合いは、一方的になることがあるので、教師の支援が必要である。

・生活科の秋祭りにあたっては、保幼小交流会に向けて、年長児に手伝ってもらうためにどんな活動をすればいいのかわからず悩んでいたら、自分たちで考えて取り組むことができた。
・グループ活動では、好きな言葉を自分の1日の生活について話してみたい、自分の考えを伝えることが出来るようになってきた。
・国語科の「たぬきの傘」では、たぬきとおかみさんのお面をつけることで、登場人物になり切って、音読することができた。

秦荘東小学校区めざす子どもの姿

	自 立 心	言葉による伝え合い
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題や目標を立て、周囲に流されることなく、自分の考えや判断に基づいて計画的に取り組もうとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの立場や意図を明確にしながら、計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる子ども <p>【根拠に基づく論理的な表現・合意形成】</p>
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割や課題を自覚し、友達と協力しながら、責任をもって取り組もうとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見から共通点や相違点に着目して聞き、自分の思いや考えを理由とともに伝えることができる子ども <p>【理由をもって説明・話し合いを深める】</p>
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分でしなければならないことを自覚して行い、諦めずにやり遂げようとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を聞き、自分の思いや考えを相手にわかるように伝えようとする子ども <p>【聞く・話す楽しさ、表現の基礎】</p>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なことに挑戦し自分のしたい遊びを見つけ、遊びがより楽しくなるように友達と考えたり、工夫したりして一緒に遊び倒そうとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、友だちや教師の話に興味をもって聞き、やりとりを楽しむ子ども
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな遊びを通して自分のしたい遊びを見つけ、遊びがより楽しくなるように考えたり、工夫したりして遊び倒そうとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験したことや遊び倒して気付いたこと、友達や教師に伝えたいことを自分の言葉で伝えようとする子ども
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・安心できる環境の中でいろいろな遊びを体験し、自分の遊びを見つけて遊ぼうとする子ども 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して、見たことや思ったことを言葉にしようとする子ども。

学校だいすき

☆校舎内を探検

*みんなで教室を見てまわる。自分たちの教室以外にも理科室や家庭科室のように、今まで知らない教室や教具に触れ、もっと知りたい、使ってみたいという気持ちが高まる。

*職員室やろう下で、初対面の先生に出会う。先生と仲良くなりたいという気持ちが芽生える。

◎教師の顔写真を見せながら、「この先生見たことある？」

*「お姉ちゃんの先生！ろう下で見たことある。」

*「見たことあるけど、名前は分からない。」

先生たちにインタビューしよう！！
先生達にどんな質問をしようかな？



準備・計画をたてる
話し合おう

小学校にはどんな部屋があるのかな？みんなで見に行きたい！

◎学校にはどんな部屋があるかな。

*「本がたくさんある部屋がある。」

*「いろんな道具が置いてある部屋があった。」

→見に行ってみよう。

*子ども達のつぶやきからスタート

職員室に先生がいたよ、先生と仲良くなりたい！

ふりかえり

◎先生にインタビューして仲良くなるう。

「先生のどんなことが知りたい？」

◎子ども達のつぶやきから、質問の選択肢を作る（10こぐらい）

*先生達の好きなものが知りたい！

*たくさんの先生にインタビューしたい！

先生に質問しよう



ふりかえり

先生にたくさん質問して、先生のことを知りたい！

運動場には何があるのかな？探検してみよう。

運動場に虫を探しに行こう！

遊具であそぼう



ふりかえり

運動場にはたくさんの遊具あるね。遊具で遊んでみたい！

虫探しに行きたい



運動場の森の中には自然がいっぱい！
見てみて！虫がいたよ。

【この単元でつきたい力】

○自立心

・子ども達からの「～したい」から次の計画を立てる力。

・もっと知りたいことを、もう一度進んで調べに行く力。

○言葉による伝え合い

・グループで質問を考えたり、先生にインタビューしたりすることで、相手のことを意識して考え、自分の言葉で話す力。

☆子ども達の「～したい」を大切に次の活動へつなげる

*先生と仲良くなりたい。

*学校のことをもっと知りたい

*遊具で遊んでみたい

*虫や植物を探しに行きたい

☆春から夏に虫の種類が増え、さらに秋見つけへと発展し、2学期へつながる。

滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

ためきの糸車

【この単元でつけたい力】

- ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読することができる。
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- ・言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。



初発の感想をもとに単元の目標を立てよう



ためきとおかみさんの気持ちを知りたいな

物語を読んでみよう

どんなお話かな？

糸車って何だろう？

小学校は「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえた**指導を工夫**

どうしてためきは糸車を回したかったのかな？

どうしておかみさんはためきを助けたのかな？

「ためきの糸車」のお気に入りの場面を見つけよう



お気に入りの場面を友達と交流したり、発表したりしよう

ためきも糸車を回したいのかな？

【単元の評価規準】

- ・言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。
- ・擬音語や擬態語などの言葉の響きに気を付けながら、音読をしている。
- ・「読むこと」において、場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えている。
- ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
- ・場面の様子に進んで着目し、これまでの学習をいかして、お気に入りのところとそのわけを考えようとしている。

自分とはちがう場面を選んで友達もいておもしろいな

お気に入りの場面をまとめよう



この場面が好きだな



「ずっと、ずっと、大すきだよ」の単元につないでいく

【単元の工夫】

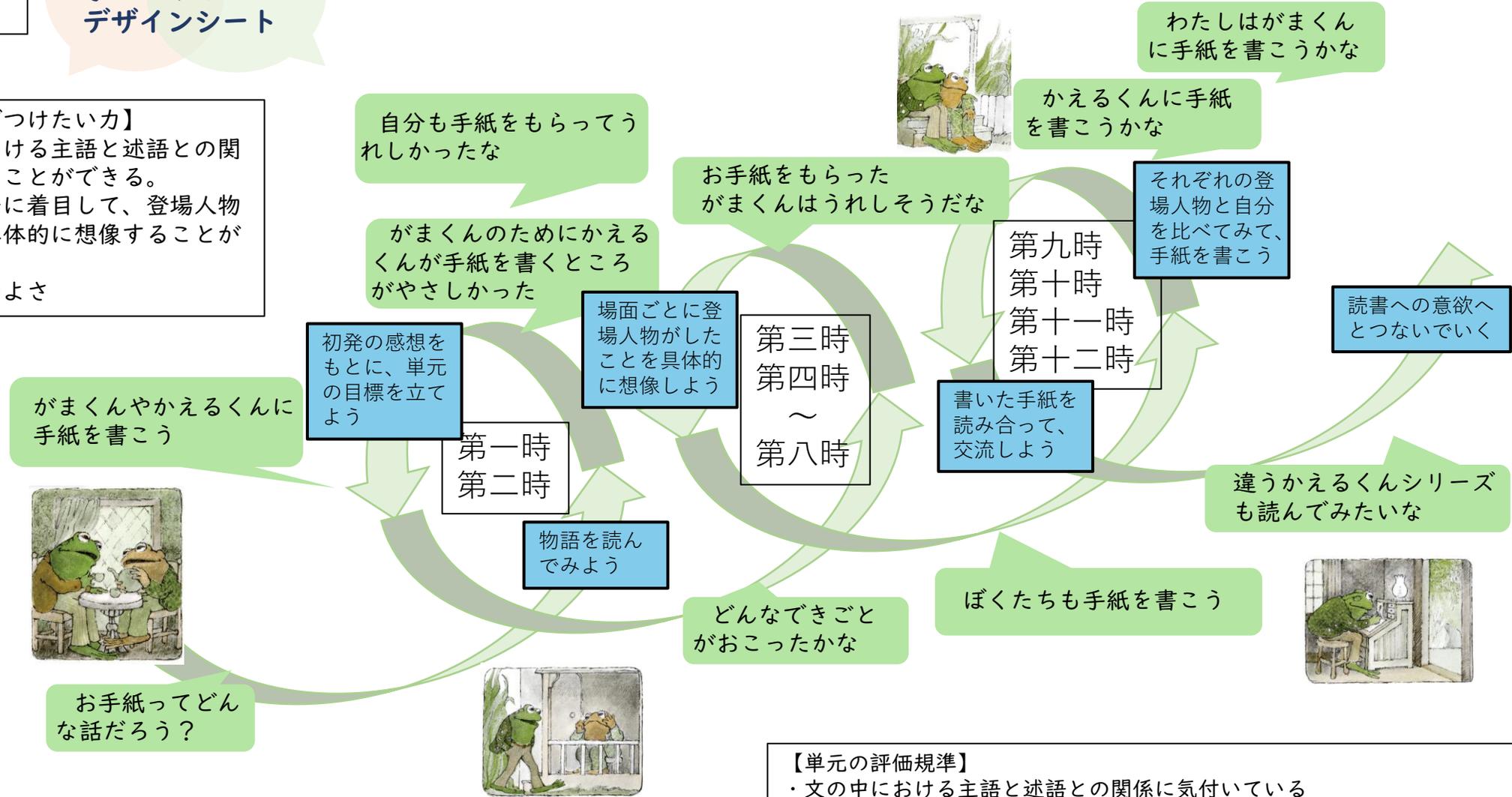
- ◎本文と挿絵を結び付けて読んだり、それぞれの場面の様子を想像して読んだりする。
- ◎文中の言葉に着目したり書かれていないことを想像したりしながら学習を進めていく
- ☆いろいろな昔話に親しめるように、教室に昔話の本をたくさん置き、並行読書を行う。
- ☆単元の最後では、お気に入りの場面の本文を書き抜き、友達と音読し合う活動を行う。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

お手紙

【この単元でつきたい力】

- ・文の中における主語と述語との関係にきづくことができる。
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
- ・言葉がもつよさ



小学校は「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を踏まえた**指導を工夫**

【単元の評価規準】

- ・文の中における主語と述語との関係に気付いている
- ・場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。
- ・進んで文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、登場人物に手紙を書こうとしている。

三年とうげ

滋賀県版 学びのサイクル デザインシート

【この単元でつきたい力】

- ・登場人物の行動や気持ちの変化について叙述を基に捉え、感じたことや考えたことを文章にまとめ、伝え合う。

【単元の工夫】

- ・登場人物の変化をノートやワークシートに書きこみ、自分の考えを交流し合うという目標を考え設定するように指導する。
- ・場面分けをしたり、単元の最後の時間に民話を紹介したりして、見通しをもつように指導する。

おじいさんはこのときこんな気持ちだったのか。

友だちの感想を聞いてもう一度自分の感想を考えてみようかな。

みんながわかりやすい紹介文にするにはどうすればいいかな。

そんな考えもあるのか。

民話の紹介文を考えよう

登場人物の気持ちを知りたいな。

登場人物の気持ちを行
動から考えよう

第十二時

「モチモチの木」の単元につ
なげていく。

もっと三年とうげを知りたいな。最後は民話のよさを紹介するのか。

第十時
第十一時

民話の紹介をし
よう

紹介の発表方法は何に
しようかな。

第一時
第二時
第三時

「三年とうげ」
のおもしろいところをまとめ、
友だちと伝え合おう

第四時
第五時
第六時
第七時
第八時
第九時

第2時で書いた感想を振り
返りながら「三年とうげ」の感想を書
いて交流しよう

第2時で書いた感想と比
べてみよう。

民話のよさをもっとみんなに
広めたいな。

三年とうげってなんだらう。

初読の感想をもとに単
元の目標を立てよう

三年とうげ
を何度も読んでみよう

友だちの感想も知
りたいな。

【単元の評価規準】

- 知識・技能等
 - ・引用のしかたを理解し使っている。((2)イ)
- 思考・判断・表現等
 - ・「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動や気持ちを具体的に想像している。((C)エ)
- 主体的に取り組む態度等
 - ・登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。

【先生の関わり】

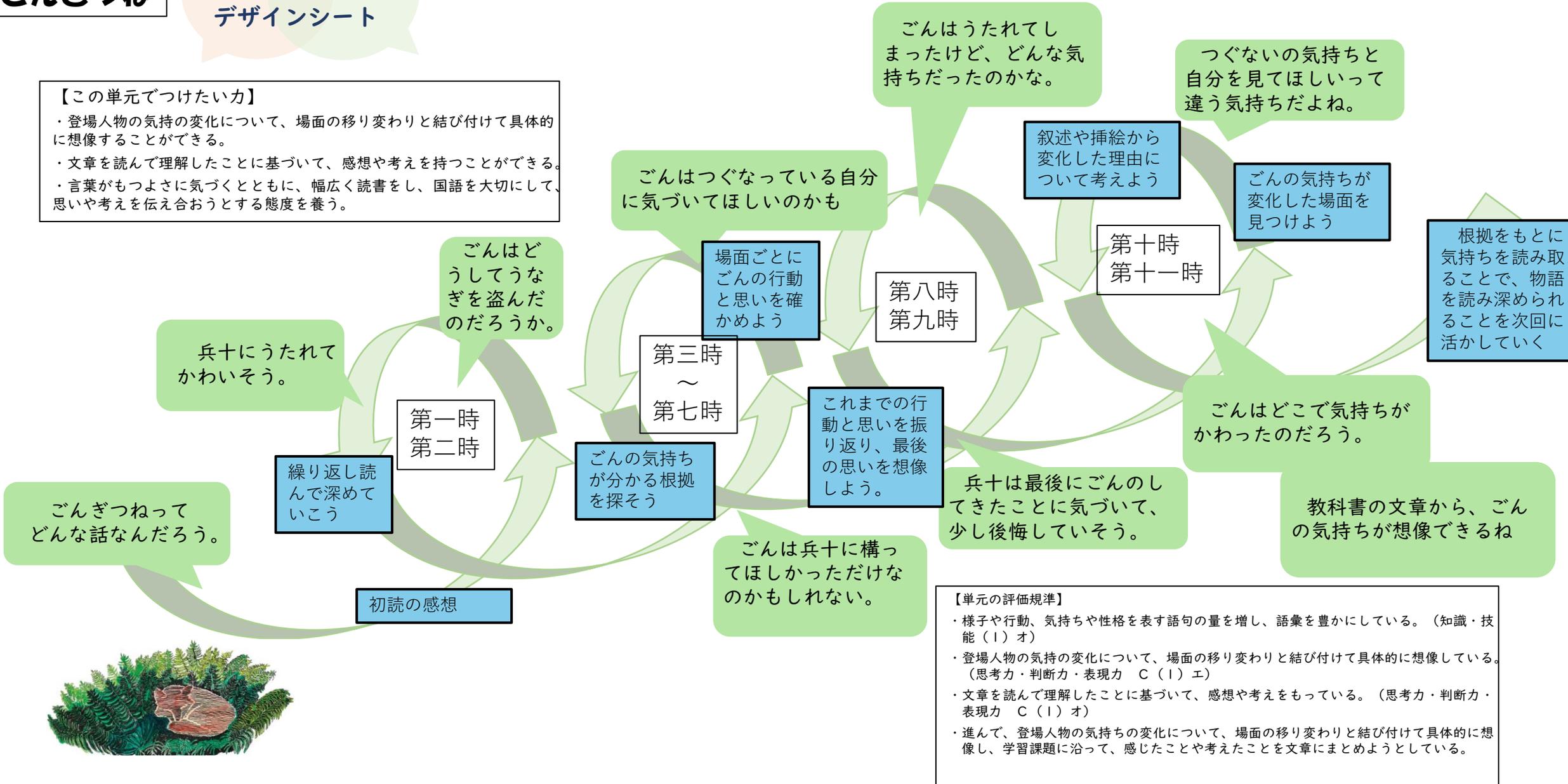
- ・なかなか書き込めない児童には、「なぜおじいさんはそうしたのだと思う?」「おじいさんはどんな気持ちだったのかな。」等の助言をする。
- ・おじいさんの様子や表情を想像して実演するように促す。
- ・教科書の「しょうかいする文章のれい」を参照して、まとめる内容を全体で確認する。
- ・民話の面白さを子どもたちが選んだ方法（動画や資料等）でアピールするように声かけをする。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

ごんぎつね

【この単元でつきたい力】

- ・登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像することができる。
- ・文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えを持つことができる。
- ・言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。



兵十にうたれて
かわいそう。

ごんはど
うしてうな
ぎを盗んだ
のだろうか。

ごんはつぐなっている自分
に気づいてほしいのかも

ごんはうたれてし
まったけど、どんな気
持ちだったのかな。

つぐないの気持ちと
自分を見てほしいって
違う気持ちだね。

根拠をもとに
気持ちを読み取る
ことで、物語を
読み深められる
ことを次回に
活かしていく

ごんぎつねって
どんな話なんだろう。

繰り返し読
んで深めて
いこう

初読の感想

ごんの気持ち
が分かる根拠
を探そう

ごんは兵十に構っ
てほしかっただけな
のかもしれない。

場面ごとに
ごんの行動
と思いを確
かめよう

これまでの行
動と思いを振
り返り、最後
の思いを想像
しよう。

第八時
第九時

兵十は最後にごんのし
てきたことに気づいて、
少し後悔していそう。

叙述や挿絵から
変化した理由に
ついて考えよう

第十時
第十一時

ごんの気持ち
が変化した場面
を見つけよう

ごんはどこで気持ち
がかわったのだろう。

教科書の文章から、ごん
の気持ちが想像できるね



- 【単元の評価規準】
- ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（知識・技能（1）オ）
 - ・登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像している。（思考力・判断力・表現力 C（1）エ）
 - ・文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。（思考力・判断力・表現力 C（1）オ）
 - ・進んで、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って、感じたことや考えたことを文章にまとめようとしている。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

たずねびと

【この単元でつきたい力】

- ・語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うことができる。
- ・物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- ・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって、物語に対する思いや考えを伝え合おうとしている。

戦争って怖いな。たくさん
の人が死んじゃったんだな

同じ名前の子が出てく
る。気になる。

初読の感想

第一時
第二時

第三時
第四時
第五時

綾の心情の変化
のきっかけは？

戦争について学んだことで綾
の気持ちは変わったのかな？

たずねびとって何？

綾はどんな表情をし
ていたんだろう

綾の表情に
ついて考え
よう

ふりかえり

第六時

綾の分も幸せに生きよう

おばあさんとの出会いは綾に
とってどう影響したのだろう？

きれいな川はただのきれいな
川じゃなくなったんだ。初めに
読んだときと印象が変わったな。
表現の力ってすごい

自分はたず
ねびとをど
う読んだ？



【単元の評価規準】

- ・比喩や反復などの表現の工夫に気づいている。
- ・「読むこと」において人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。
- ・粘り強く物語の全体像を具体的に想像し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

【この単元でつきたい力】

- ・ 比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。
- ・ 人物像や物語などの全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
- ・ 表現や作者に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。



読んでみてもなんかよくわからないなあ。

やまなしって何？
クラムボンって何？

擬態語とか擬声語が多くて、今までの物語となにか違う気がする…

それでもやっぱりよくわからないな。

宮沢賢治はとても優しい人なのかな。

〇〇の思いがあってこの作品を書いたのかな。こんな意味があったのかな。

宮沢賢治は〇〇を伝えたかったんだな。

「おすすめパンフレットを作ろう」の単元につなげていく。

なるほど。〇〇さんはそんなふう考えたのか。

もっといろんな所に紹介したい。たくさんの人に宮沢賢治を伝えられないかな。

宮沢賢治は過去にたくさん経験をしているんだな。

作者宮沢賢治について知ったら何かわかるかも！

【単元の評価規準】

- ・ 比喻や反復などの表現の工夫に気づくことができる。（知識・技能）
- ・ 人物像や物語などの全体を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる（思考力・判断力・表現力）
- ・ 表現や作者に着目して作品世界を捉えることに粘り強く取り組み、学習の見通しをもって自分の考えを書こうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）

初読の感想

第一時
第二時

やまなしを何回も読んでみよう

ふりかえり

第三時
第四時

イーハトーヴの夢を読もう

第五時

他の作品も読んでみよう

作品の紹介シートを作ろう

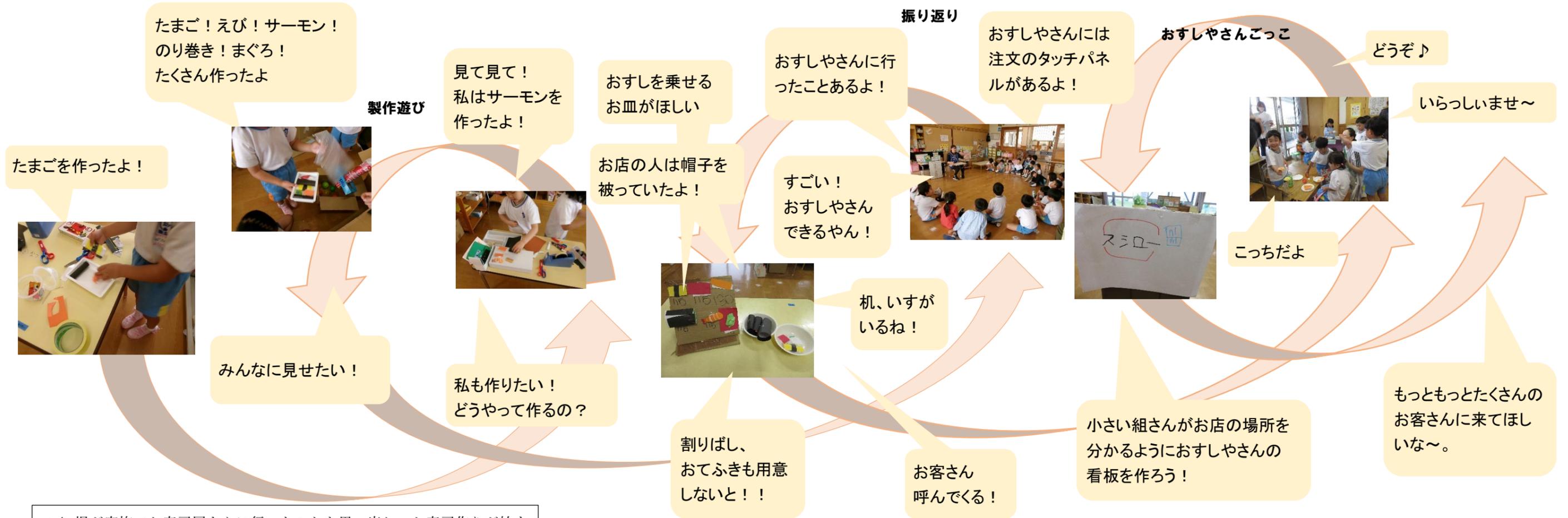
第六時
第七時
第八時

作品を紹介しよう

☆子どもが自分で素材や色などを選択して、描いたり作ったりできるように様々な種類の素材や用具を用意する。
◎子どもの発想やできたものが、次の遊びにつながるように、細部の工夫点などを具体的に認めるようにする。
◎子どもの作りたいものへのイメージに共感しながら、他の友達へと活動を広げ、多くの友達や教師と一緒に作る楽しさを感じられるようにする。

☆子どもから出た意見をホワイトボードに書いて、視覚的に情報や意見を共有しやすいようにする。
◎子どもの考えやアイデアを認めたり、自分なりに工夫している様子を伝えたりして自信につなげ、他の友達の良さに気付いて遊びを共有できるようにする。
☆イメージしたものが作れるよう、いろいろな素材を用意したり子どもの思いに合わせて準備したりして環境を整える。

◎子どもの思いを引き出しながら必要に応じて言葉を補い、みんなで遊びの様子を共有できるようにする。
☆子ども達がいすや机等を動かして遊ぶ場を構成できるように場を確保する。
◎教師がお客さんになるなど遊びの仲間となりながら、子ども達と一緒に遊びを作っていく。



*A 児が家族でお寿司屋さんに行ったことを思い出し、お寿司作りが始まった。B 児も同じものを作りたいという思いがあったが自分から言い出すことが難しかった。教師がA 児とB 児の仲立ちに入り、一緒に遊びを進めていったことで周りの友達にも遊びが広がっていった。
*綿、ペットボトルのキャップ、花紙、画用紙等、様々な素材を製作ワゴンに用意しておいたことで、子ども自身が必要な素材を選択し、しやりを工夫して作る姿があった。また、油性ペンやポスカ、色鉛筆を用意することでそれぞれの特徴を活かして魚の脂を表現していた。

*お寿司屋さんに行った経験のある子が多かったり、お寿司に関する絵本を読んだりしたことで、みんなでイメージを共有することができた。イメージが共有できたことで、友達と一緒に同じ目的をもって作るようになり、遊びが広がっていった。
*今までかばん屋さんやクッキー屋さん等、お店屋さんごっこに取り組んできた経験から、必要な物を考えて思いを伝える子が多かった。

*進級し、年長になった喜びを感じていた。お店屋さんごっこを進める中で、お店の店員としての自覚を持ち、「いらっしゃいませ」「どれがいいですか?」等言葉をかけたり、迷っている年少児のために看板を作ったりと、自分達で考えて作るようとする自立心や思いやり、言葉で伝えようとする力が育まれた。

◎子ども達が忍者の世界をイメージしやすいよう様々な忍者の絵本を読み、興味関心をもてるようにした。
☆完成した物をすぐに身に付けて遊べるスペースを設け、製作遊びと遊びがつながるように環境を整えた。

◎忍者になりきって遊ぶ姿から子ども達が意欲的にやってみたいと思えるように巻物のチャレンジカードを用意した。
◎頑張っている姿を見て刺激を受け、自分もやってみようと思えるようになり、達成感を味わいながら挑戦する姿があった。（自立心）

☆物語を考えるときには子ども達のアイデアをペープサートにし、子ども達がイメージしやすいようにした。
◎友だちと相談しながら進められるように少人数にし、話し合いの場を設定した。
☆イメージしたものが作れるよう、いろいろな素材を用意したり子どもの思いに合わせて準備したりして環境を整えた。

◎よりよいものができるように、身体全身を使って楽しく表現する子の姿をクラスの友だちにも伝え、自信につながったり、友だちの姿の良さに気付いたりできるようにした。
◎劇遊び中、セリフが止まったりしたときに教師が伝えるのではなく意図的に待ち、子ども達で協力して進められるようにした。



*7月にPTA主催の忍者修行をクラスみんなで経験したことから友だちとイメージを共有して忍者ごっこを楽しむことができた。（自立心）
*チャレンジカードの巻物が届いたことで忍者修行をイメージして「ここまでいけるようになりたい」と意欲的に取り組む姿があり、達成感を味わいながら継続して挑戦する姿があった。（自立心）

*運動遊びが苦手だった子も頑張っている姿を見て刺激を受け、自分もやってみようと思えるようになり、達成感を味わいながら挑戦する姿があった。（自立心）

*教師が子ども達のアイデアをペープサートで再現したことでイメージを共有しやすくなり、「それいいね！」「次はこんな術を使いたい！」と積極的に意見を出す姿になった。（言葉による伝え合い）
*グループで話し合う機会を設けたことで、全体の場で言葉にして伝えることが苦手な子も少人数で安心して表現することができた。（言葉による伝え合い）
*どんな道具が必要なのか子ども達に問いかけ、一人ひとりのイメージを引き出し、様々な素材があることを知らせたことで今までの製作遊びの経験を活かして工夫して作る姿があった。（自立心）

*頑張っている友だちの良さを知らせることで表現の真似をし、良いものを創るために意欲的に取り組む姿があった。（自立心）
*運動会でクラスの友だちと力を合わせて取り組む楽しさを味わったことで友だち同士、声を掛け合って劇遊びを進めていく姿があった。（自立心）

☆劇遊びを決める際に子ども達がイメージしやすいように、興味のある絵本を読んだり、見えるところに並べたりする。

☆親子で物語に親んでもらえるように、絵本を回覧する。

◎物語のストーリーが想像できるように、絵本のページを見ながら進めたり子どもが覚えているストーリーを知らない子どもにわかりやすいように話したりする。

◎子ども達が考えた登場人物や絵本にない物語など、子どもがイメージをどんどん広げていけるように認めたり、受け入れたりしてみんなで作った物語という意識がもてるようにする。

☆子どもから出た意見をホワイトボードに書いて、視覚的に情報や意見を共有しやすいようにする。

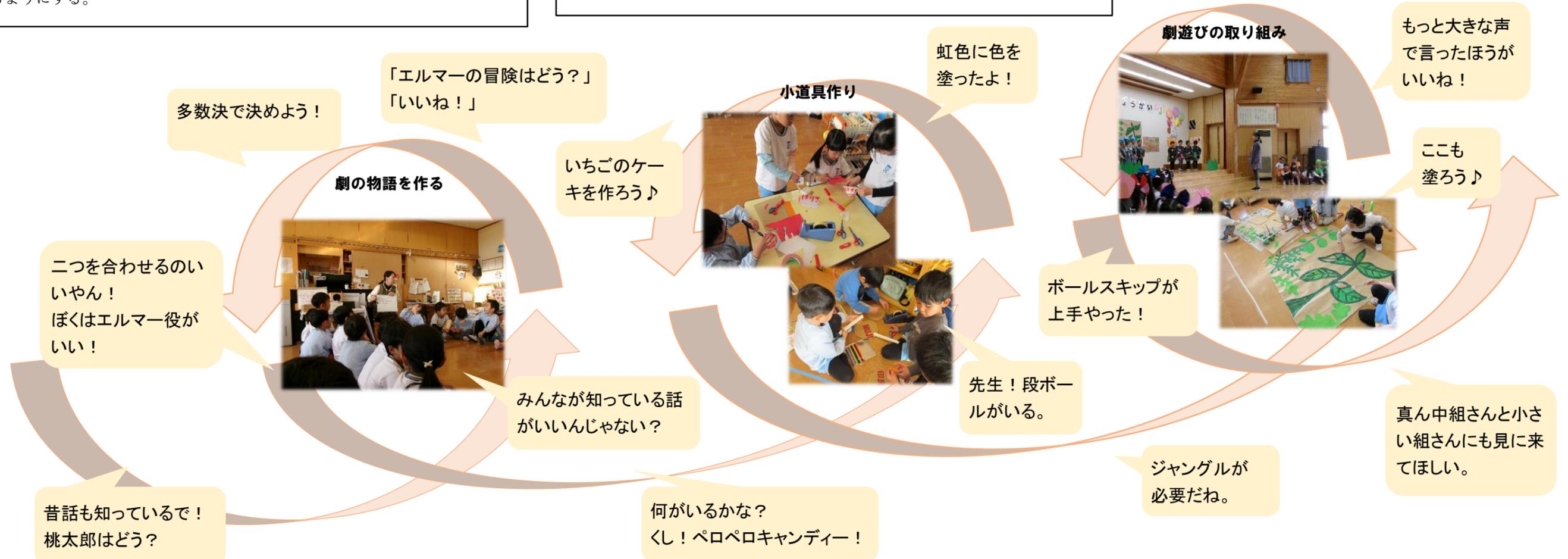
◎自分の思いや考えを伝えたり、友達の思いを受け入れたりできるように役ごとにグループに分かれて話し合いを進めるようにする。

◎話し合いが進みにくかったりセリフが決まらなかったりする場合は、必要に応じて教師が話し合いに参加して、意見が言えるよう橋渡しをしたり意見をまとめたりして一緒に考えていく。

☆イメージしたものが作れるようないろいろな素材を用意したり子どもの思いに合わせて準備したりして環境を整える。

◎お家の人にかっこいい所を見てもらうために、どうしていかか子ども達の思いをクラスで共有して、同じ目的をもって取り組む楽しさを感じられるようにする。

◎一人一人が頑張っている所やかっこいい姿を認めたり、周りに知らせたりして、「もっとこうしていこう」と意欲につなげていけるようにする。また、振り返りで「明日はどうする？」と次の取り組みに向けての頑張りポイントをみんなで考え、取り組めるようにする。



* 2学期から『エルマーの冒険』の本を少しずつ長期間読み進めてきたことで物語を覚えている姿が見られた。そうして子ども達にとって特別な本となったのだと感じた。また、一つの物語に決めることにこだわらず、子どもの思いから二つの物語を合わせるようにしたことで、想像を膨らませ、より子ども達からいろいろな案が積極的に出て、オリジナルの劇を作ることができた。

* 同じ役の友達とグループになり話し合うが、自分達で進めていけるグループと仲立ちが必要なグループがあった。なかなか意見が言えない子には教師が入りきっかけを作ることで安心して思いを伝えることができた。
* 小道具作りでは、製作遊びの経験からいろいろな素材を使って工夫して作った。また、グループの友達同士で教え合ったり見せ合ったりして関わりながら作る姿も見られた。

* 教師が進めていくのではなく、子ども達が自分達で決めていくことで、同じ目的をもったり目標にして頑張ったりして取り組む姿につながった。
* グループの中でセリフを教え合ったり言うタイミングを知らせたりして友達同士で声を掛け合いながら劇を進めていく姿が見られ、自分達の劇という意識をもっているのだと思った。

彦根市立城陽幼稚園・花田保育園・多景保育園・どんぐりけんだいまえ保育園・彦根市立城陽小学校

研究主題：聞き合おう 考えよう やってみよう

～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

1 主題設定の理由

これまで本小学校区では、幼保小連絡協議会において、授業・保育参観や意見交流会などを行ってきた。今年度は、さらに各校園の「強み」と「課題」を整理・共有した。その結果、自分の思いを伝えたり、「これで合っているのかな」と不安が大きくなかなか行動に移したりすることができない子どもが多くいる現状が明らかとなった。このことから、子どもたちも教職員もが「やってみよう！」へとつながる声かけや環境づくりを工夫し、それらを踏まえた保育・授業実践を展開する。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1)実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月18日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員	・1年生授業公開 ・第1回城陽っ子カリキュラム開発会議 (顔合わせ、実施計画、子どもの実態把握、カリキュラムシートの作成)
5月27日	幼保小管理職、各園主任、本年度入学児童関係園の5歳児担任、1年担任、教務、加配教員	・1年生授業公開 ・児童の引継ぎ・実態の交流
6月17日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児担任、1年担任、教務、加配教員	・第2回城陽っ子カリキュラム開発会議 (進捗状況の交流、実践シート、夏季保育実習について) ・指導主事の指導講話
7月1日	幼保小管理職、市幼児課、各園主任、5歳児1年担任、小学校職員(希望者)、教務、加配教員	・城陽幼稚園園内研究会保育公開、 ・大学教授の指導講話
7月11日	幼保小管理職、各園主任、5歳児1年担任、加配教員	・花田保育園5歳児を招待して1年生の音読発表会「おおきなかぶ」
7月28日 ～31日	小学校全職員	・保育参加(花田保育園、多景保育園、どんぐりけんだいまえ保育園)
7月31日	幼保小管理職、市幼児課、各園主任、5歳児1年担任、小学校職員(希望者)教務、加配教員	・花田保育園園内研究会保育公開 ・市教委幼児課の指導講話
8月19日	小学校全職員	・保育実習振り返り研修
8月25日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員	・第3回城陽っ子カリキュラム開発会議 (1学期の振り返り、公開研修会に向けて) ・大学教授、指導主事の指導講話
9月25日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員	・第4回城陽っ子カリキュラム開発会議 (公開研修会に向けて) ・主査の指導講話
10月10、14日	幼保小管理職、各園主任、5歳児1年担任、加配教員	・小学校運動会練習参観、学校探検
10月23日	全教職員、県内からの参加希望者	・公開研修会、公開保育・授業、研究協議 ・大学教授、県主査、指導主事の指導講話
11月6、7日	幼保小管理職、各園主任、5歳児1年担任、加配教員	・学習交流 (城陽タウン・あきのおもちゃまつり 4園)
11月19日	幼保小管理職、各園主任、5歳児1年担任、加配教員	・小学校音楽会参観(来年度入学予定希望園)
12月19日	幼保小管理職、市幼児課、各園主任、5歳児1年担任、教務、研究主任、加配教員	・第5回城陽っ子カリキュラム開発会議 (公開研修会・2学期の振り返り、来年度に向けて)
2月10日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員	・第6回城陽っ子カリキュラム開発会議 (カリキュラムの見直し、来年度の公開研修会の日程について) ・大学教授、県主査、指導主事の指導講話
3月10日	幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員	・第7回城陽っ子カリキュラム開発会議 (カリキュラムの見直し、来年度の公開研修会について)

(2)加配教員の取組

◆保育への参画について

4園（主に5歳児クラス）の保育に参画し、保育者の子どもへの関わりを近くで見ることによって、声かけや環境づくりなどを学ぶことができた。保育の場では、「いいね」「やってみよう」「大丈夫だよ」など子どもを認め、前向きな言葉かけが多く見られた。また、園での活動は、子どもたちの「やりたい」「してみたい」という思いをきっかけに進められており、子ども同士や保育者との言葉による伝え合いを通して、遊びがさらに発展していた。子どもたちは、自分が満足いくまで何度も遊びを繰り返すことで、自分の目標に向かう力や最後まであきらめない力を培って、小学校へ入学してくることが分かった。小学校においても、子どもたちの「やりたい」という思いを大切に、授業を改善していく必要があると感じた。

◆架け橋期のカリキュラムの作成に向けて

「城陽っ子カリキュラム開発会議」を定期的に行い、幼保小管理職、市幼児課・市学校教育課、各園主任、5歳児1年担任、教務、加配教員でカリキュラムの作成・検討をした。子どもたちの実態を共有する中で、「これで合っているかな」と不安で自分から行動することが苦手な子どもたちが多いことが分かった。そこで、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の中から「言葉による伝え合い」と「自立心」を重点とし、「やってみよう」「やってみよう」へとつながる保育・授業づくりを進めていくことにした。昨年度の幼保小連絡協議会で決めた「聞き合おう 考えよう やってみよう ～お互いを認め合い、つながり合える子ども～」を今年度も「期待する子ども像」として引き継ぎ、「チーム城陽っ子」として一体的に取り組むことに決めた。また、開発会議で話し合う中で、子どもたちの実態に合わせて、城陽っ子カリキュラムをその都度改善し、実態に合うものを作成していくことにした。

3 実践事例

(1)園児・児童の交流

本研究指定を受け、園と小がいつでも気軽に行き来できる関係づくりを目指してきた。小学校の行事だけではなく、授業の発表場面やお散歩の通り道など、何度も園児が学校に来る機会を作ることができた。小学校に遊びに来た時には、1年生が手をつないで校舎内を案内したり、休み時間に一緒に遊んだりして、楽しむことができた。

また、小学校の校内音楽会では、来年度入学予定園児がいる全ての園に案内をし、参加した園児と児童で「勇気100%」を歌うなどして、温かい雰囲気となった。初めて小学校に来た園児もおり、学校の雰囲気を感じてもらうよい機会となった。

2学期には、1年生が国語科「じどう車くらべ」のまとめとして、「城陽タウン」を作り園児に紹介したり、生活科「楽しい秋いっぱい」では、おもちゃランドに招待し、どんぐりやまつぼっくりを用いて作った秋のおもちゃと一緒に遊んだりすることができた。一緒に遊んだことがとても楽しく、「次は園に招待したい!」という園児の声から、初めて1年生が園に行き、お店屋さんごっこを一緒に楽しんだり、5歳児の発表を見たりした。園児が学校に来るだけではなく、児童が園に行くという新たな経験をすることができた。

3学期には、園児が小学校生活への安心感と期待感をもてるよう、入学説明会において5年生との「5・5交流」や1年生との1日学校体験を計画的に実施した。



【じどう車くらべ のりもの紹介】



【校庭で遊ぶ子どもたち】



【校内音楽会】



【運動会練習参観】



【学校探検】

(2)加配通信の発行

加配教員として、4園の保育に参画する中で、保育者と子どもたちとの関わり方や声かけ、支援の仕方など

から、子どもたちの活動がどのように変わっていくのか、どんな学びが生まれているのかということを通信「チーム城陽っ子」にまとめ、4園、小学校に掲示をした。また、2学期から、共通絵本「なないろ」の取組を始めた。4園で同じ絵本を読み、入学した際に、「この絵本知っている」「読んだことある」と絵本を通して子どもたちがつながれるきっかけの一つになることを期待している。これについては、通信「なないろ」を発行し、共通絵本や園や小で読んでいる絵本、教職員おすすめの絵本などを紹介し、校区のつながりの一つになるようにしている。

(3) 小学校全教職員の保育への参加・研修

夏季休業中に、小学校全教職員が、花田保育園、多景保育園、どんぐりけんだいまえ保育園で保育体験を行った。絵本の読み聞かせや水遊びなどを一緒に行い、遊びの中での学びに気付くことができた。



【保育体験】



【振り返り研修】

その後、保育体験の中で見取った保育者の支援や声かけ、子どもたちの学びを共有し、重点とする姿である、「言葉による伝え合い」「自立心」に基づいて、今後の授業改善に向けて話し合った。「子どもたちからの発言を待ち、思いを肯定的に捉え、認められるようにする」など自分たちの授業を振り返り、具体的に何をするのかということを確認することができた。

また、来年度に向けて、全教職員で取組を進めていくために話し合い、3学期に「学びのサイクルデザインシート(ぐるぐるシート)」を全員が活用することにした。初めて活用する教員もいたが、学年で話し合いながら進める中で、自身の授業を振り返るよいきっかけとなり、子どもたちの発言から「もっとこんな活動を取り入れたらよかった」「次は、こういうふうに進めたい」など、さらなる授業改善につなげることができた。

(4) 合同研修会

2園が、園内研修会を開き、幼保小職員が保育参観・研修会に参加した。園での保育の様子から子どもたちが遊びを通して学ぶ姿を見取り、それぞれの立場で話し合うことができた。初めて保育を参観する小学校職員もおり、園でのびのびと活動する姿や、「やりたい」と自ら進んで取り組む様子を見て、園で培った力を小学校の授業でどのように生かしていくことができるのか考えることができた。実際に保育を見ることで、子どもたちの遊びが、小学校での授業にもつながっていることが分かり、相互に参観することの重要性にも気付くことができた。今後も、保育・授業参観を引き続き行い、互いの教育の共通点を見つけ、幼保小の接続の充実につなげていけるようにする。



【合同園内研修会の様子】

4 研究の成果

幼保小の教職員間で、互いの保育・授業参観をくり返し行うことで、互いの教育における共通点やつながりを見つけることができた。また、月に1回程度を目安に「城陽っ子カリキュラム開発会議」を行い、顔を合わせ、子どもたちの様子や園小での取組を共有する機会を設けた。これにより、4園と小学校が同じ目標に向かって、「自立心」と「言葉による伝え合い」を重点に、気軽に話し合い、取組を進めていくことができた。

園児と児童との交流を重ねることで、子どもたちからも「一緒に交流したい」という発言が生まれるようになった。5歳児から、1年生に「園に来て、一緒に遊びたい」と誘ったり、1年生から、「音読劇を聞いてほしい」「学習したことを紹介したい」など互いに交流を望み、意欲的に活動したりする様子が見られた。

園での遊びを通して学んだことや、「できるようになりたい」と自分の目標に向かう力、最後までやり抜くあきらめない力など、幼児期に育まれた資質・能力を、子どもたちが小学校での生活や学習に生かして進める大切さを共通認識することができた。

5 今後に向けて

今年度は、5歳児と1年生との交流を何度も行い、園児が小学校を訪れる機会を多く設けることができた。一方で、取組が特定の学年に限られてしまっていた面もあったことから、来年度は、全学年で取組を進めていけるようにする。また、5・5交流や4・4交流なども積極的に進め、園から小学校への滑らかな接続を継続的に進める環境を整えていきたい。

また、全年齢、全学年を通して、互いの保育・授業参観から得た学びを生かし、保育・授業改善を進めていく。今年度の取組を通して築いた園と小学校とのつながりを大切に、子ども同士だけではなく、教職員同士の気軽な交流についても、今後も継続していきたい。

	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3

聞き合おう 考えよう やってみよう～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

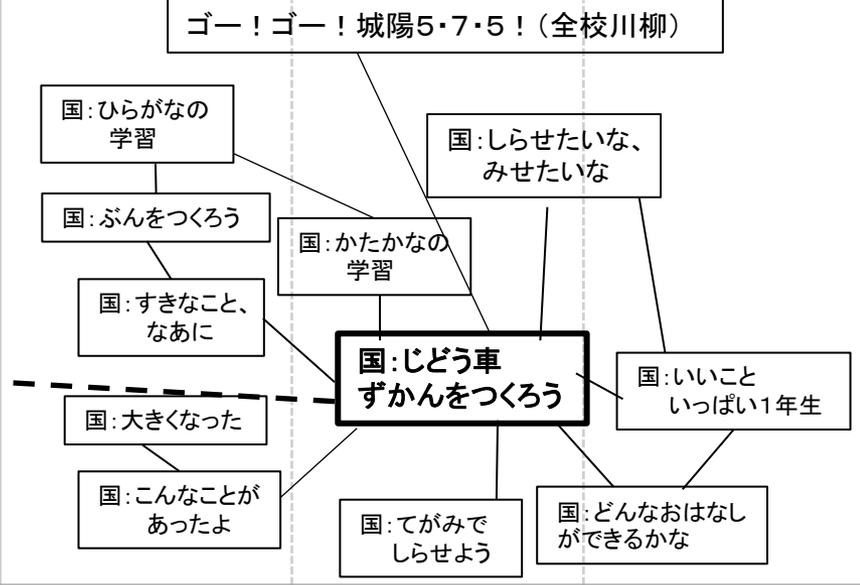
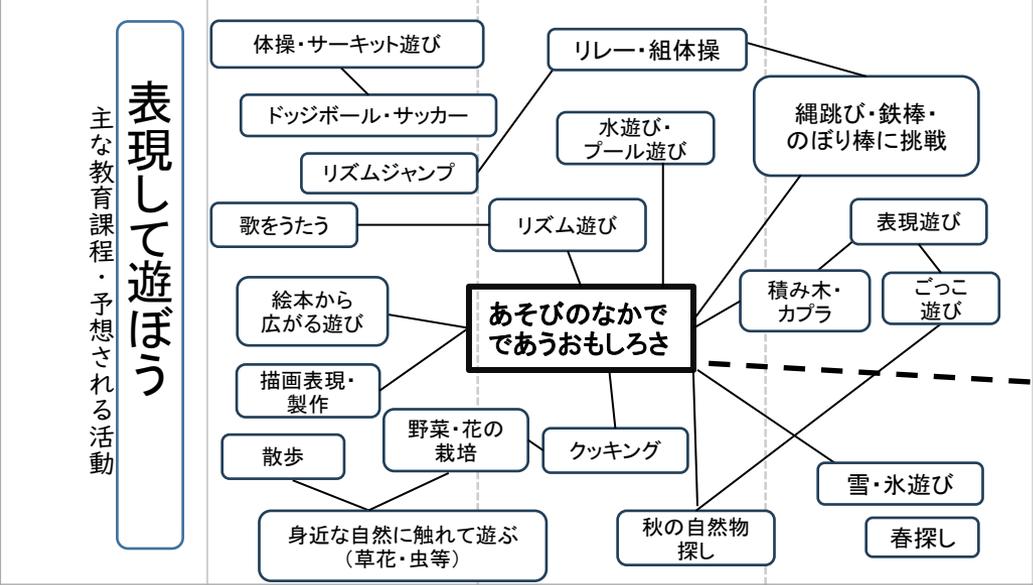
言葉による伝え合い
友だちや先生、さまざまな人との関わりの中で、「伝えたいな」「伝えてよかった」から、お互いに認め合える関係づくり。

自立心
「どうしよう」という思いから「やってみよう」とひと歩踏み出し、いろいろなことにチャレンジしようとする。

環境単元
「やってみよう」へ踏み出す一歩の工夫【声かけ・しかけづくり・場づくり・柔軟性】

先生の関わり
「どうしたい？」→「どうしてた？」→「どうしたい？」という問いかけから、自分から「やってみよう」「やってみよう」へとつなぐ。

キーワード



振り返り
☆成果
△課題
○次にむけて

○「どうしたらいい?」「どうしよう?」の声に「どうしたい?」と返すことで、自分で考え「やってみよう」とする力が少しずつ身についたように感じる。
△自分の行動にまだ自信がない子もいる。
☆引き続き遊びの中でたくさんの達成感を味わい、自信につながり、主体的に活動できるように進めていく。

○運動遊びへの取組や、お店屋さんごっこなどを通して、友達と話し合う・協力する力が身についた。
△積極的に参加することは難しく、友達に言われるがまま、受け身の子どももいる。
☆自分の意見を一方的に伝えるだけでなく、相手の気持ちもしっかり聴けるよう、話し合いの機会を引き続き大切にする。

○一日の流れをつかみ、時計を見ながら片付けたり、給食の準備(机や椅子を運ぶ)を進めたりと子どもたち同士で声をかけ合いながら進める姿が見られるようになった。
△自分の話を聞いてほしいという思いが強いあまり、話を割って入ったり、かぶせたりと聞く力が少し弱いように感じる。
☆この1年間で話す力がだいぶ身につく、それぞれ自信をもって生活している、その自信を生かしながら小学校でも過ごしてほしいと思う。

○「園ではどうしてた?」をキーワードに園での経験を生かして学習活動に取り組むことができた。
△失敗することに不安を感じ、自分の思いを発表したり、表現したりすることが苦手な児童がいる。
☆一人ひとりの思いを大切に、自分の考えを発表したり、書いたりすることを通して、自分も「やってみよう」と思える学習活動を進めていく。

○単元のゴールを決める際に、誰かに伝えたいという思いをもつことが多くなり、相手意識をもって意欲的に学習に取り組むことができた。
△読み取る力に差が出てきた。誰もが、「できそう」と思える手立てを考えなければならない。
☆「これならできそう」「やってみようかな」と思える声かけやワークシートなどを作成し、取り組めるようにする。

○単元のゴールを決める際に、誰かに伝えたいという思いをもつことが多くなり、相手意識をもって意欲的に学習に取り組むことができた。
△読み取る力に差が出てきた。誰もが、「できそう」と思える手立てを考えなければならない。
☆「これならできそう」「やってみようかな」と思える声かけやワークシートなどを作成し、取り組めるようにする。

	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3

聞き合おう 考えよう やってみよう～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

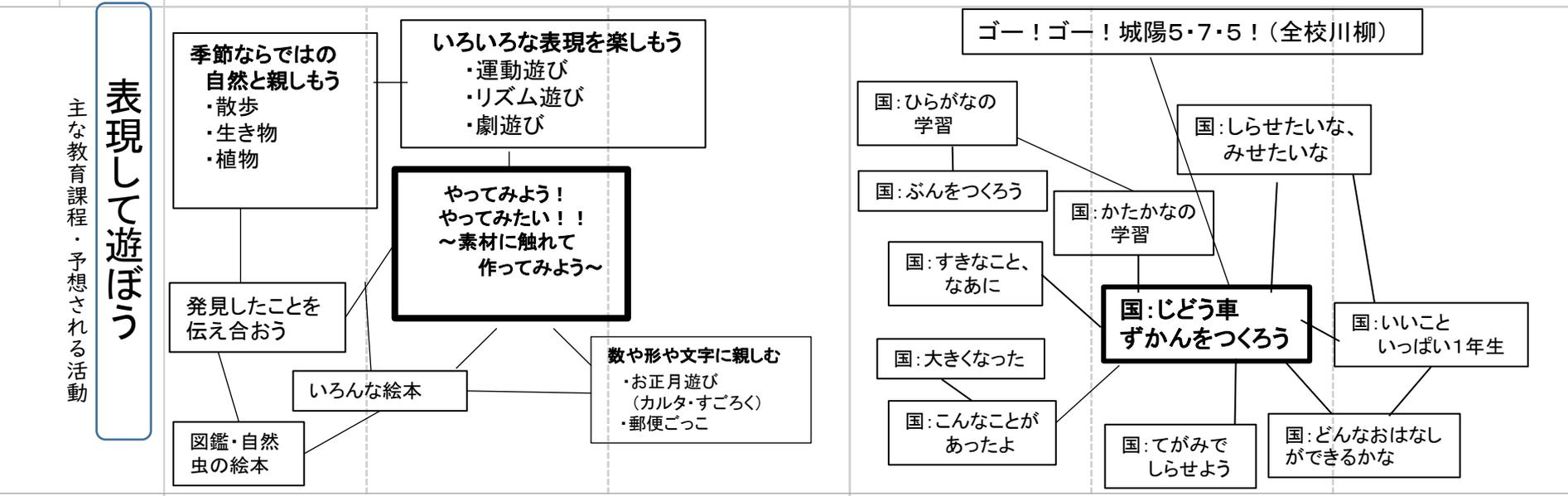
言葉による伝え合い
友だちや先生、さまざまな人との関わりの中で、「伝えたいな」「伝えてよかった」から、お互いに認め合える関係づくり。

自立心
「どうしよう」という思いから「やってみよう」とひと歩踏み出し、いろいろなことにチャレンジしようとする。

環境単元
「やってみよう」へ踏み出す一歩の工夫【声かけ・しかけづくり・場づくり・柔軟性】

先生の関わり
「どうしたい？」→「どうしてた？」→「どうしたい？」という問いかけから、自分から「やってみよう」「やってみよう」へとつなぐ。

キーワード



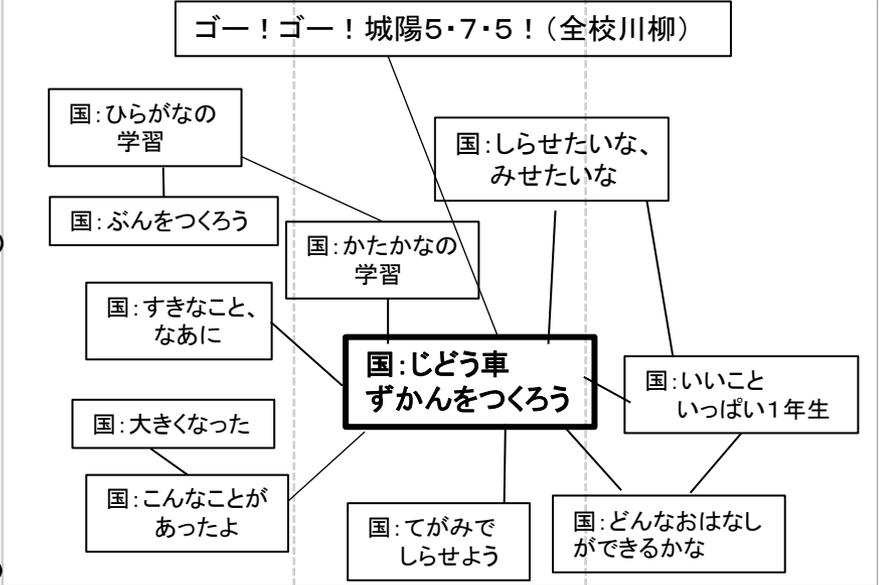
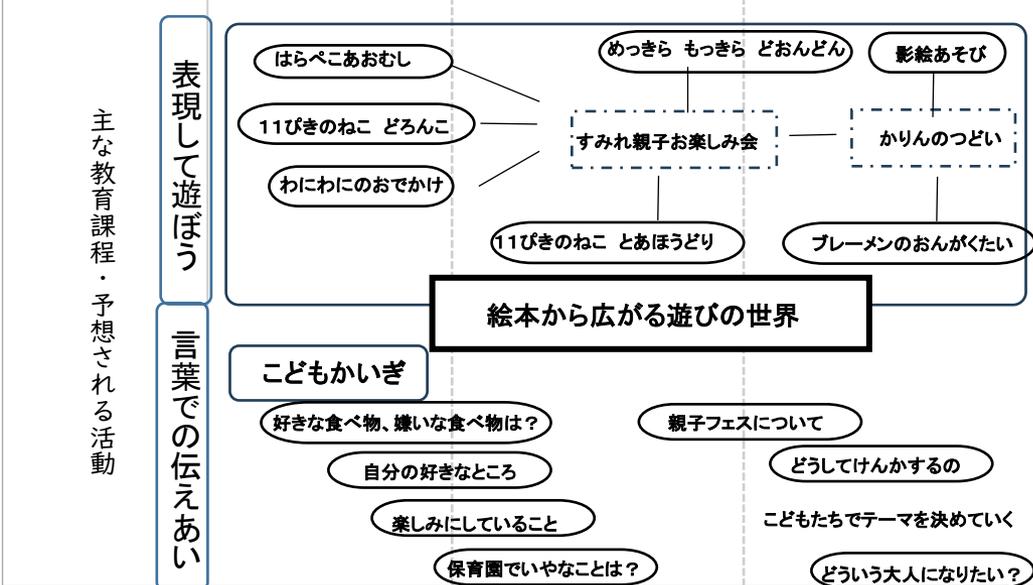
<p>☆成果 △課題 ○成果 次にむけて</p>	<p>振り返り</p>	<p>○子どもたちが興味をもっている「自然」との関わりを大切にしながら生活・遊びを進めた。 △自分の思いや考えを、友だちや保育者に伝えるのが苦手な子の姿が目立った。 ☆子どもたち一人ひとりの思いを汲み取り、言葉で伝えられるよう引き出していく。自分の思いも相手の思いも大事にしながら関わり合えるよう環境を整え遊びを工夫していく。</p>	<p>○身近な素材に親しみ、工夫して使いながらお家づくりを楽しんだり、金づちや釘を使って、自分のもつイメージを形にして表現することを楽しんだ。 △上手くいかないとすぐに諦めたり、簡単な方法に切り替えたり、取組自体を無かったことにする姿が見られる。 ☆友だちや保育者との関わりの中で、困ったことや上手くいかなかったことを言葉にして共有し、一緒に考え合えるよう進めていきたい。</p>	<p>○クリスマスにプレゼントでもらったことで、たこあげを楽しんだ1月。「どうしたら高く飛ぶかな？」「糸が絡まったらどうしたらいいかな？」といういろいろなことを考えながら、遊びを進めた子どもたちだった。他にも、こまをまわしや坊主めくり、郵便ごっこなどを楽しみ、更に友だちとの仲を深めた。 △☆卒園を意識する子どもも多く、不安を感じている姿も見られる。就学に向けて自信をもてるように今後もいろいろなことに挑戦できる環境を作っていく。</p>	<p>○「園ではどうしてた？」をキーワードに園での経験を生かして学習活動に取り組むことができた。 △失敗することに不安を感じ、自分の思いを発表したり、表現したりすることが苦手な児童がいる。 ☆一人ひとりの思いを大切に、自分の考えを発表したり、書いたりすることを通して、自分も「やってみよう」と思える学習活動を進めていく。</p>	<p>○単元のゴールを決める際に、誰かに伝えたいという思いをもつことが多くなり、相手意識をもって意欲的学習に取り組むことができた。 △読み取る力に差が出てきた。誰もが、「できそう」と思える手立てを考えなければならぬ。 ☆「これならできそう」「やってみようかな」と思える声かけやワークシートなどを作成し、取り組めるようにする。</p>	<p>○自分が知っていること、新しく知ったことを「伝えたい」という思いが出てくるようになった。また、困った時には、友だちや先生に聞いたり、本で調べたりするなど、自分で解決方法を考え行動することができるようになってきた。 ☆子どもたちから「～したい」という発言が出てくるようになった。2年生になった時に、今年度の経験を生かして新学年がスタートできるようにしていく。</p>
--------------------------------------	-------------	---	--	---	--	--	---

	5歳児			第1学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3

聞き合おう 考えよう やってみよう～お互いを認め合い、つながり合える子ども～

てりほ りま まで しい 姿 育 っ わ	言葉による 伝え合い	友だちや先生、さまざまな人との関わりの中で、「伝えたいな」「伝えてよかった」から、お互いに認め合える関係づくり。
	自立心	「どうしよう」という思いから「やってみよう」とひと歩踏み出し、いろいろなことにチャレンジしようとする。

大切 にし たい こ と	環境単元	「やってみよう」へ踏み出す一歩の工夫【声かけ・しかけづくり・場づくり・柔軟性】
	先生の 関わり	「どうしたい？」→「どうしてた？」→「どうしたい？」という問いかけから、 自分から「やってみよう」「やってみよう」へとつなぐ。
	キーワード	



☆ 成果
△ 課題
○ 次
に
む
け
て

振り返り

○「こどもかいぎ」では、少人数に分けることで、子ども一人ひとりの意見に耳を傾けることができ、こんなことを考えているんだという発見があった。
△抽象的なテーマだと発言する子しない子に差がでたので、いろいろなテーマをもちながら様子を見ていきたい。

○春に「11びきのねこ どんごんこ」の世界で遊んだ経験から「11びきとあほうどり」の絵本を読むと、子どもたちから、「気球が作りたい」「大きなあほうどりを積み木で作りたい」という意見がどんどん出てくるようになってきた。
○神社に散歩に出かけその風景を見た瞬間「めっくらもっくらどおんどん」のお話の世界が子どもたちの中に広がり、子どもたちの作りたい世界観を室内で作り、12月の親子お楽しみ会でも、普段の遊びの様子として見てもらうことができた。

○「こどもかいぎ」では、始めた当初は、「自分の意見を担任に聞いて欲しい」という気持ちが前面に出ていたが、毎月行っていくうちに、友だちが話している間は、発言するのを待っていたり、それぞれの思いや意見を話し合う姿が出てきた。
○戶外遊び中に、「影」に興味を示し、そこから室内での影絵遊びに発展し、また、その時読んでいた『プレーメンのおんがくたい』の世界観とも合わせ、泥棒の家を積み木で作り、影絵を楽しんでいる。

○「園ではどうしてた？」をキーワードに園での経験を生かして学習活動に取り組むことができた。
△失敗することに不安を感じ、自分の思いを発表したり、表現したりすることが苦手な児童がいる。
☆一人ひとりの思いを大切に、自分の考えを発表したり、書いたりすることを通して、自分も「やってみよう」と思える学習活動を進めていく。

○単元のゴールを決める際に、誰かに伝えたいという思いをもつことが多くなり、相手意識をもって意欲的に学習に取り組むことができた。
△読み取る力に差が出てきた。誰もが、「できそう」と思える手立てを考えなければならない。
☆「これならできそう」「やってみようかな」と思える声かけやワークシートなどを作成し、取り組めるようにする。

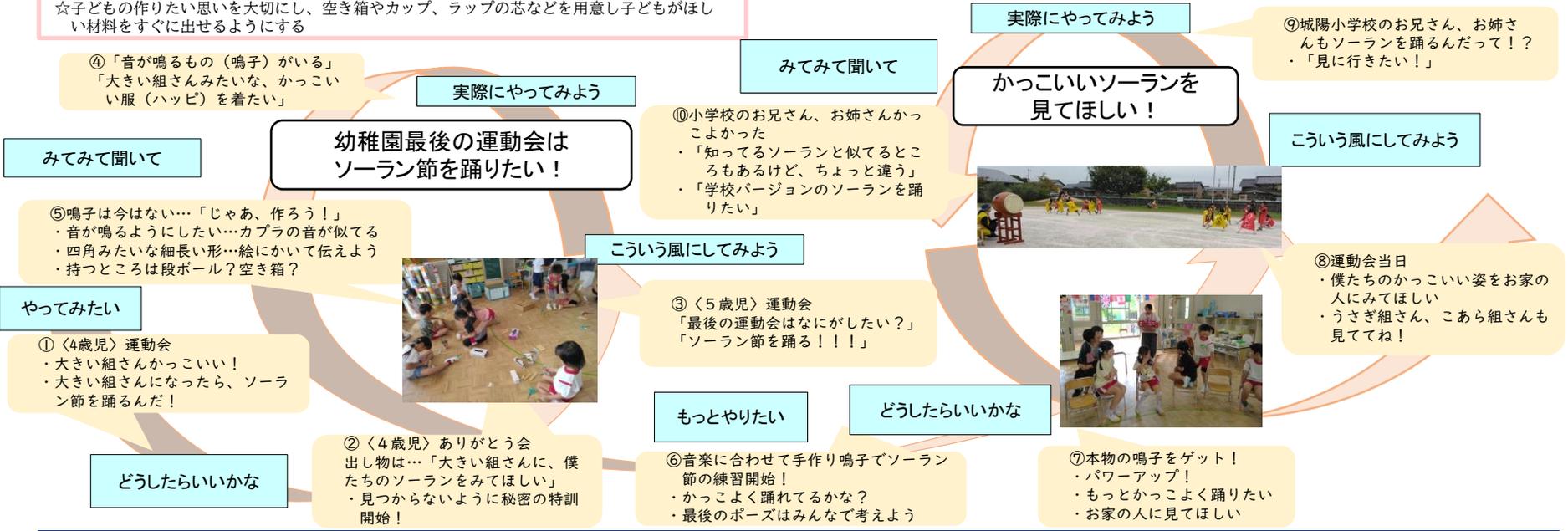
○自分が知っていること、新しく知ったことを「伝えたい」という思いが出てくるようになった。また、困った時には、友だちや先生に聞いたり、本で調べたりするなど、自分で解決方法を考え行動することができるようになってきた。
☆子どもたちから「～したい」という発言が出てくるようになった。
2年生になった時に、今年度の経験を生かして新学年がスタートできるようにしていく。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

【運動会はソーランがしたい！（5歳児） 「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定
○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者のきづき・ねがい

○年中の時から年長組のソーランに憧れをもち、「年長組になったらソーランを踊りたい」と保育者に伝える。
○昨年度のありがとう会の出し物では、「カッコいい姿を見てほしい」とソーランを披露し、最後は全園児みんなで踊る姿があった。
○年長になり「最後の運動会、何がしたい？」と問いかけると「絶対ソーランがいい！」
◎子ども達のやりたい気持ちを受け止め、運動会はソーランをすることにした。子ども達が思っていることを自分なりの言葉で伝えられるような場を作っていく。
○「音が鳴るの持つんだよ」「名前がわからないけど…」「カッコいい服を着てた」「背中に名前が書いてある服！」
☆「音が鳴るもの」「…マラカス？」という子どもの声に様々な楽器（マラカス、カスタネット、鈴、タンバリン等）をもってきて音の聞き比べができるように園にある楽器を用意する
○言葉で伝えにくいところは絵にかいて伝えようとする姿もみられた。
○カブラの音が鳴子の音と似ていることに気づく。
○すぐに鳴子を用意できないことを伝えると、「じゃあ、作ればいいんだ」
☆子どもの作りたい思いを大切に、空き箱やカップ、ラップの芯などを用意し子どもがほしい材料をすぐに出せるようにする

◎子ども達が作った様々な鳴子をみんなが見られるような場を整える
◎手作り鳴子で踊りたいという子どもの声に、ソーランの音楽をかける。
*最後のポーズは子ども達が考えてほしいと思い、相談したり考えたりできる時間を設けた。
○しばらくは手作り鳴子でソーランを踊っていた。念願の鳴子を手にするので大喜びで何度も鳴らしたり、「カッコよく踊りたい」と一層踊りに力が入る姿があった。
○年少、年中にもカッコいい自分たちの姿を見せたいとはびの背中にはひらがなで名前を書くことが決まった。
○運動会当日は、一人一人が輝くソーランを披露することができた。
○小学校でも「ソーラン節」を踊ることを知る。「見に行きたい！」
☆学校に連絡を取り、ソーラン節の練習風景を見せてもらえるようにした。
○小学校のソーランは「同じところもあるけど、ちょっと違う」「なんか、カッコいい！」
○見入る姿があり、「小学校のソーランも踊ってみたい」という声が出た。



昨年の年長児に憧れをもち、年中時から「大きい組さんになったらソーランがしたい」と保育者に伝える姿があった。今年、「運動会は何がしたい？」と聞くと「ソーランが踊りたい！」と保育者に伝える姿があった。ソーランの音楽がかかると、自然とみんなの体が動き「えいや！」のかけ声も元気に言う姿がある。「年長組になったらソーランがしたい」という憧れが強い意欲となって、自分たちなりに考えながら積極的に取り組む姿があった。今までの経験から鳴子を手作りするなど工夫しようとする姿がみられ、創造力を発揮し自分のアイデアを形にする楽しさや「音が鳴るようにしたい」と試行錯誤しながら挑戦しようとする姿がみられた。運動会終了後、小学校のソーランを見に行き、自分たちとは違うソーランに関心がさらに広がり、興味や次への挑戦意欲につながる様子が見られた。そこで、小学校と連携を図り、子ども達の「学校のソーランを踊りたい」という思いの実現に向けて、学校の先生が子ども達に教えに来てくださることになった。自分の憧れを形にできたことで、達成感や自信を得たようにも感じる。今回の経験を通し、主体性や創造力、やってみようという意欲など様々な面で成長を感じることができた。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

【 夏まつりに向けて 】 「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定

○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者のきづき・ねがい

○たちばな号で借りた絵本「わんぱくだんのなつまつり」をきっかけに昨年度の夏まつりを思い出し、「今年も夏まつりしたい！」という気持ちになる。
○昨年度のゆり組(5歳児)がお化け屋敷をしていたことが印象的で、憧れの気持ちを抱いたのか、自分たちもやってみようとする。
○夏まつりに関する絵本にたくさん親しみ、(わごむまつり、えんにち等)いろんなお店を開いてみたいという気持ちを持つ。
☆クラスでどんなお店を開くか話し合う場を設ける。
☆イメージが広がるような夏まつりに関する絵本を用意したり、自分たちで選択できるような素材をたくさん準備する。
☆あそびを深められるよう部屋を広く確保する。
◎自分たちで主体的に進めていこうとする姿を大切に、見守りながら関わっていく。
◎一人ひとりのつぶやきを逃さず、アイデアなどをクラス全体に伝え、広げていけるよう援助する。
*いろんな意見や考えがあることを知りながら、折り合いをつけられるようになってほしい。

○最初はみんなでお化け屋敷に取りかかるところから始まったが、お化け屋敷の道ができてきたことで、かき氷屋さんや射的も作らないという気持ちになる。
○友達と声をかけ合いながら協力して作り進める姿がある。一方で、それぞれのチームに分かれて作り進める中で思い思いに作りたいものを作り、同じグループの友達に何をしているのか伝わっていないときがある。
☆いろんな素材を用意し、自分たちで選択して遊びに活用していけるようにする。
☆ハサミ等も使うので、各グループに十分なスペースを設ける。
◎それぞれのグループが言葉での伝え合いを大切にしながら進めていけるよう仲立ちすると共に時には話し合いの場をもつ。
*お互いを認め合いながら、あそびの中で伝え合うことの大切さ、協力することの大切さに気づきながら楽しんでほしい。

④・お店(お化け屋敷、射的、かき氷屋さん)が決まったから役割分担をしよう!
・お化け屋敷が大変そうだからみんなで手伝おう
・お化け屋敷の道を決めよう

①・昨年のゆり組さんみたいにお化け屋敷をしたい!
・おすし屋さんのようにたくさんのお客さんに来てほしい! 喜んでもらいたい!

②・みんなで話したらしたいお店屋さんがいっぱい出てきたよ
・何個お店を開く?

どうしたらいいかな

やってみたい

④・お店(お化け屋敷、射的、かき氷屋さん)が決まったから役割分担をしよう!
・お化け屋敷が大変そうだからみんなで手伝おう
・お化け屋敷の道を決めよう

実際にやってみよう
今年も夏まつりをしたい!(5歳児)



(お化け屋敷の道をどんな風にするか絵に描いて決めているところ)

⑤・赤ちゃん組は怖い泣くんじゃない?
・怖い道とかわいモンスタの道2つを作ったら?
・怖い方と怖くない方の2つの入り口を考えよう!

みてみて聞いて

⑩・赤ちゃんには鉄砲は難しそう
・かき氷たくさん作らなくちゃ
・お化け屋敷に驚かすところやトンネルを作ったら?

みてみて聞いて

③・お店は3つにしよう!
・多数決で何のお店にするか決めよう!

こういう風にしてもいいかな

⑥・道をダンボールで作ってみよう!
・矢印があったほうがわかりやすいかも
・看板が必要だね
・火の玉を作りたい!

もっとやりたい

実際にやってみよう
お友達と協力しながらお店を作ろう!



⑦・道を作ったら、すぐに倒れちゃうよ
・かき氷さんと射的がまだ何も作れてないな

どうしたらいいかな

⑨・ベットボトルを支えにしたら道が直ったよ!
・自分たちで決めたお店屋さんごとに分かれて作り始めよう!

こういう風にしてもいいかな

⑧・積み木やベットボトルを使って支えたら?
・お化け屋敷の道は作れたからそれぞれのお店に分かれよう

●...協力しながらお化け屋敷の道にベットボトルの支えをつけて倒れないようにしているところ
●...教え合いながら射的の鉄砲作り
●...かき氷さんの壁作り

昨年度の実験から子どもたちの「やってみよう」という気持ちからはじまったこの活動。活動を通して友達と協力すること、言葉での伝え合い等様々な力が、さらに育まれたように感じる。当日は年下の友達を招待して喜んでくれたことで自信につながったと思う。ぶつ切りになることなく、引き続きあそびを深め次につなげていきたいと思う。今回、公開保育(園内研修)を行なったことでいろんな意見をいただき、自分の新たな気づき、反省につながり、多くのことを学ぶ機会になった。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

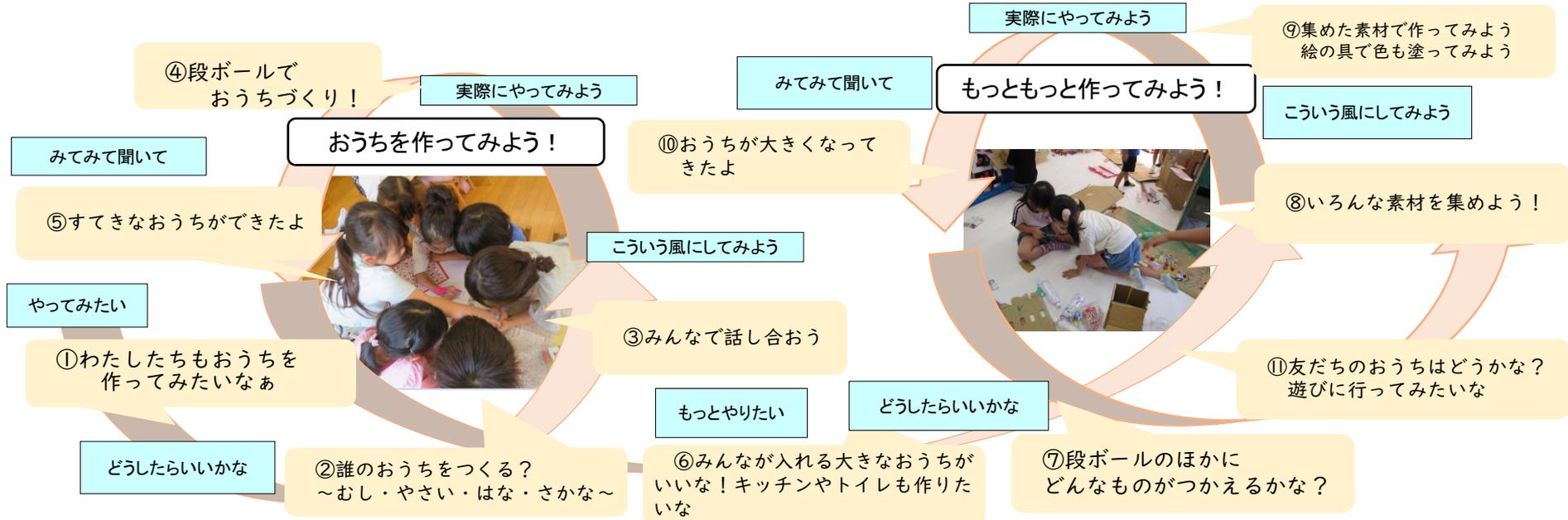
【『100かいだてのいえ』の世界から広がる“おうちづくり”】

「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定

○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者のきづき・ねがい

- みんなで虫や野菜を育てる中で、それらが出てくる絵本に興味を持つようになった
- 『100かいだてのいえ』を読むと、「こんなおうちに住みたい!」「ぼくのおうちはこうしたい!」と想像を膨らませる姿が見られた
- 自分のもつイメージをもとに作ってみようとする
- ☆絵本コーナーに『100かいだてのいえ』シリーズや関連する絵本をおいておく
- ☆子どもたちの発想やつぶやきをのがさず、こうしてみたいという思いを大切にしながら必要な材料を用意し、実現できる環境を整える
- ◎子どもたちの会話を丁寧に聞き取り、思いを引き出せるように声をかける
- *興味のある絵本をみんなで楽しみ、イメージしているものを作ってみる楽しさを感じてほしい

- 友達同士で、「ここはおふろにしよう」「階段をつけたいな」など、イメージを共有しながら作る楽しさを感じている
- 意見の違いがあるものの、相談しながら決めようとする姿も見られる
- 友達の作ったものに興味をもち、一緒に進めてみようとする
- ☆子どもたちの発想やつぶやきを逃さず、こうしてみたいという思いを大切にしながら必要な材料を用意し実現できる環境を整える
- ☆素材コーナーを充実させ、自由に使えるようにする
- ◎素材や道具の使い方や安全面に配慮しながら、子どもが主体的に進められるように見守る
- ◎完成だけでなく作る過程を大切に、努力や工夫を認める声かけをし、満足感や充実感が味わえるようにする
- *友達の考えや思いを受け入れ、折り合いをつけながら一緒に作り上げる経験をする中で楽しく活動を進めてほしい
- *身の回りの素材に興味を持ち、工夫して使おうと意欲をもってほしい



これまで経験してきたことから絵本に興味を持ち、絵本からの発想が子どもたちの主体的な造形・表現遊びへと自然に発展していった。材料の扱いやスペースの使いかた、おうちの構造などを友達と相談しながら工夫する姿が多く見られる。そのなかで、意見がぶつかる場面もあったが、保育者の仲立ちにより自分たちで折り合いをつける力が育ってきているように感じるため、子どもたち同士で解決する機会も作っていききたい。また、「○○ちゃんのアイディアいいね!」「こうしたら繋がるよ!」など相手の考えを受け入れながら協力する姿も見られるようになり、今後も子どもたちの発想を大切にしながら活動を進め、おうちづくりから街づくりへと発展させていきたい。

滋賀県版
学びのサイクル
デザインシート

【絵本から広がる遊びの世界】 「～したい！」に繋がる 手立て・配慮・場の設定
○子どもの姿 ☆環境 ◎保育者の援助・配慮する要項 *保育者のきづき・ねがい

○年下の子と手をつなぐなど、年長児としての役割を意識する気持ちが育つ。
○交通ルールを守りながら散歩に出かける。
◎横断機や笛等で園児が通ることを周囲に知らせる。
*公道を通る経験を重ねながら、社会性・道徳性・規範意識の芽生えを育てていく。
○季節の移り変わりを肌で感じ、自然への興味関心を深める。
○秋の自然物を集めて楽しむ。木の実を拾い、名前が分からないものは園に帰って図鑑等で調べる。

○物語の世界を楽しむ。
○お話の世界を表現するため、友達と意見を交わす。
◎子どもたちの姿やつぶやきを見逃さず、子どもたちの興味をより引き出せるような声かけをしたり、環境をつくる。
*自分の気持ちやアイデアを言葉で伝えられるようになっていたり、相手の意見を受け止め、どうしたらいいか考えられるようになって欲しい。
☆子どもたちが必要とする道具が、すぐに出せるように、予め予想し、いろいろなものを用意しておく。

みてみて聞いて



「この木に おもちを刺してみよう」
「そうしたら 3人組が来るかなあ」

実際にやってみよう

「1つ 1つ ゆっくり
乗せるんやで」
「2列の方が崩れへんかもね」

実際にやってみよう



「すみれお楽しみ会」



・子どもたちが大好きな絵本の1つ
“めっきらもつきら どおんどん”今年もお話会で読んだ日から、子どもたちは何とも不思議な世界に入り込み楽しんでくれています。

神社に散歩に出かけよう

「数珠玉でネックレスつくりたい」
「お宝交換できたらいいね」
「おたからやさん しょうか？」

みてみて聞いて

めっきらもつきらどおんどん

こういう風にしてみよう

「大きな穴もつくれへんかなあ」
「ぼく 通れるで!!」

やってみたい



こういう風にしてみよう

「この実 おもちのなる木のおもちみただね」

もっとやりたい

どうしたらいいかな



～お散歩先の神社の鳥居をぐり抜けた瞬間・・・
♪ちんぶく まんぶく あつぱらこの きんぴらこ♪
「葉っぱが揺れているよ、誰か出てくるかも・・・」

どうしたらいいかな

「3人組にあいたいね～」
「お手紙書いたら 出てきてくれるかもね」

「お部屋の中でも、3人組と遊びたいね」

「お部屋の中でも、大きな木を作ったら いいんじゃない？」

・絵本に出てくる、鳥居や神社などのシンボリックなものが、空想世界への入口となることで、子どもの姿から伝わってきた。
・子どもたち自身が草を揺すりながらも、ワクワクした表情で「誰か来たのかも!？」と楽しみ、「お話の世界だから・・・」と思いつつ、もしかしたら本当にあるかもしれないと信じ、友だちと一緒に楽しむ経験が、仲間関係を深くしていくと感じている。
・普段の遊びを保護者の方にも見てもらう「すみれお楽しみ会」でも、「めっきらもつきらどおんどん」で劇ごっこを楽しんだ。実際の遊びで経験したことなので、子どもたちも気負わず自然な流れでセリフを言う姿などが見られた。今後も絵本から広がる遊びの中で子どもたちの「心の育ち」を育てていきたい。

○1ぐる目の手立て

・幼稚園や保育園で歌っていた歌やみんなが知っている歌を取り入れながら、小学校で出会った新しい友達と歌うことに慣れるようにしていきたい。また、みんなで体を動かしたり、なりきったりする活動を取り入れることで、楽しい気分で学習を進めることができるようにする。

○2ぐる目の手立て

・小学校にも校歌があることを知り、幼稚園や保育園の園歌を歌ってきた経験を生かしながら、愛着をもって楽しく歌うことができるように進めていく。繰り返し出てくる言葉や似ているフレーズを見つけ、意味をみんなで考えながら、その様子を想像して歌えるようにする。

【単元目標】

○音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりして、楽しく聴くことができる。
○校歌に愛着をもち、城陽小学校の一員として、元気に歌おうとすることができる。
○歌を歌ったり聴いたりする活動を通して、友達と一緒に音楽活動の楽しさを感じ取ることができる。

④みんなが知っているチューリップを歌ってみよう。いろいろな動物になりきって歌ってみよう。
他にも園の歌も歌ってたよ。卒園式で歌ったね！

③大きな声で元気に歌うためには、姿勢が大切だよ。体も動きやすく、ストレッチをしておこう。

⑨毎月の全校集会でみんなと一緒に歌えて楽しいな。1学期の終業式も大きな声で歌えたよ。



実行

何が必要か

実行

何が必要か

目的・目標

振り返り

⑤園でも歌はたくさん歌ってきたけど、学校でもみんなで歌うと楽しいね。学校では、歌を歌う時間を「音楽」っていうんだね。次は何を歌うのか楽しみだなあ。

何を・どのようにするか

⑩これからも、式や授業で歌う時には大きな声で歌えるようにしていきたいな。

振り返り

何を・どのようにするか

⑧まずは歌詞を覚えられないね。一度歌を聴いてみよう。1番と2番と3番で似ているところがあるね。ちょっと歌えそうだな。歌いたいな。

①幼稚園や保育園でたくさん歌を歌ったり、リズム遊びをして楽しかったなあ。小学校ではどんな歌を歌うのか楽しみ。
入学式でみんなが歌っていた校歌も早く歌ってみたいな。



②園ではどんな歌を歌っていたかな。「きらきら星」や「1年生になったら」を歌っていたよ。音楽の教科書にもいっぱい歌が載ってるね。鍵盤ハーモニカもあるよ。楽しみだなあ。

目的・目標

⑥幼稚園や保育園には、園の歌があったように、城陽小学校にも、「校歌」という学校の歌があるよ。入学式でお兄さん、お姉さんが歌ってくれた歌かな。私たちも歌えるようになりたいな。早く歌いたいな。

⑦保育園の園歌はどんなのだったのかな。みんなの園歌も聴きたいな。園の先生に弾いてもらって歌ってみよう。次は校歌も聴いてみたいな。



【指導の記録と今後の取り組み】
園でたくさん歌を歌ったり、リズム遊びをしたりした経験を活かして小学校の音楽の学習でも、まずは、園での歌やリズム遊びをすることから始めた。すると、「やったことある！」「知っている！」と自信をもって取り組むことができた児童が多かった。
また、オープンスペースを使い、体を大きく動かしたり、友達と向かい合って歌ったりすることで、歌う楽しさを感じながら学習できたこともよかった。
園歌は卒園式で歌った記憶が新しく、幼稚園、保育園での生活を思い出しながら、同じ園出身の子たちと楽しそうに歌う様子が見られた。

今後も校歌は、始業式や終業式、全校集会など何度も歌うことがある。歴史ある城陽小学校の校歌に愛着をもち、全校を引っ張るくらいの元気な歌声で歌ってほしいと思う。
主体性を大切にしながら、全員が歌う楽しさを感じながら、今後も音楽の学習に取り組んでいけるようにしたい。

栗東市立治田東こども園・栗東市立治田東小学校

研究主題:自分の思いや考えを伝え合い、学び合う子どもの育成

～しなやかな心もち、粘り強く取り組む子どもをめざして～

1 主題設定の理由

本小学校区の子どもたちは、自分の思いをうまく言葉で伝えることを苦手を感じているという実態がある。したがって、子ども一人ひとりが安心できる集団の中で、自分の思いや考えを伝え合う力を育成していくことが課題である。また、第4期栗東市教育振興基本計画においては、「心豊かでしなやかに生きる人の育成」を基本目標とし、困難なことや心が折れるようなことに出合っても、「しなやか」に立ち直る力（レジリエンス）を育むことをめざしている。

以上を踏まえ、こども園では、「心をほぐし、心が動く体験を通したしなやかな心と体づくり」、小学校では、「自分の思いや考えを交流し合い、試行錯誤しながらの学びの深まり」に焦点を当てて研究を進める。これにより、就学前から小学校へ子どもの「育ち」をつなぎ、発達と学びの連続性・一貫性のある教育・保育を円滑に行えるように実践していく。

2 幼児教育と小学校教育をつなぐ取組や架け橋期のカリキュラムに関する取組など

(1) 実施した研修会等

実施日	対象	内容等
4月 11日	園小管理職、加配教員、市担当課	事業の打ち合わせ（ねらいの確認）
4月 15・16日	園小管理職、加配教員、市担当課	活動計画の立案、加配の勤務形態について
5月 13日	園小管理職、加配教員、教務主任、 教務、1年、4・5歳児担任	研究の方向性について 架け橋期カリキュラムの概要について
6月 4日	1年担任、加配教員、 5歳児担任、1年児童の出身園の担任	園小連絡協議会 （1年生の授業参観、授業研究会）
6月 11日	園小管理職、加配教員、5歳児担任、 小学校職員、市内園小職員	架け橋期カリキュラムの作成（めざす姿の共有） 県指導主事の講話
7月 11日	1年担任、加配教員、園職員、市担当課	保育参観、保育研究会
7月 29日	園小管理職、加配教員、5歳児担任、 小学校職員、市内園小職員、市担当課	本校区の取組報告、大学教授からの助言・講演、 県主査の指導助言
7月 30日	1年担任、加配教員、5歳児担任、 園小管理職	架け橋期カリキュラムの作成、公開授業の指導案 検討、県指導主事の指導助言
7月～(夏休み)	小学校教職員	保育研修
10月 6日	1年担任、加配教員、5歳児担任	架け橋期カリキュラムの作成
10月 14日	1年担任、加配教員、5歳児担任、園 小管理職	第1回にっこにこタイム(5歳児と1年生の交流 会、運動会のリハーサル参観、運動会ごっこ)
11月 4日	園小職員、市担当課、 県内校園からの参加希望者	公開研修会、公開保育・授業、研究協議 大学教授の講演、県指導主事の指導講話
11月 20日	1年担任、5歳児担任、加配教員	第2回にっこにこタイム(授業参観)
12月 16日	1年担任、5歳児担任、加配教員	第3回にっこにこタイム(あきまつり)
1月 30日	1年担任、5歳児担任、加配教員	第4回にっこにこタイム(学校探検)
2月 13日	園小管理職、5歳児担任、小学校職員	架け橋期カリキュラムの見直し、次年度に向けて
3月 2日	園小管理職、加配教員、市担当課	次年度に向けて

(2) 加配教員の取組

◆保育への参画について

5歳児クラスの保育に参画し、保育者の子どもへの関わり方や環境づくりについて学んだ。中でも、保育者が子どもに「どう思う?」「どうしたい?」という問いかけをすることで、子どもの思いをもとに、柔軟に保育が展開されていることに感銘を受けた。子どもの思いをもとに活動が展開されていくことは、小学校でも改めて大事にしていきたいと考えた。そこで、1年生の学習の中でも、「3つの『どう』」「『どう思う?』『どうしたい?』『(これまで)どうしていたの?』」という問いかけを意識し、授業改善につなげられるようにした。



◆加配通信「きらきら」の作成と配付

園と小学校の子どもたちの活動から見取った姿や指導者の支援を中心に、「園と小の互いのよさ」の理解が進むように加配通信を作成し、配付した。園での様子を伝える際には、小学校の授業改善に生かせる子どもへの関わり方や環境づくり、子どもたちの培った力についてまとめた。また、小学校の様子を伝える際には、園の保育のよさを取り入れた学習展開や園で培った力が小学校でどのように発揮されているかということについて意識して取り上げ、職員で共有できるように努めた。

きらきら	園小連携加配通信 第 17 号 2025. 10. 17
------	------------------------------------

ようこそ、治田東小学校へ!

10月14日、治田東こども園のほし組、ひかり組の子どもたちが、小学校に来て高ました。大人同士、子どもと大人のつながりだけでなく、子どもたち同士も大切にしたいという思いから、今回の交流が実現しました。園児と小学生が交流する機会を「にっこにこタイム」と命名されました。お楽しみいただいた材料ばらです。

当日は、運動会リハールで各学年部の団体演技を参観した園児たち「楽しそう!」「わあ、すごいな!」と、あこがれを聞きながら見ていました。小学生も、小さなお友達に驚きながらも練習の成果を出し切ることができました。リハール後は、園児と1年生の子どもたちが促して遊んだり、ダンスや歌を交わしたりして、一緒に楽しみました。ほし組は互いに緊張していた子どもたちでしたが、少しずつ打ち解けていく姿が見られました。

交流の合間に「にっこにこ!」「今度は、こども園にも来てほしいな!」「また、小学校に来てもらって、一緒に遊びたいわ!」と、園児も1年生も思いが乗ってきました。互いに素敵な時間を過ごせた「にっこにこタイム」、ぜひ、次回も交流の機会をもちたいです。





照れながら、自己紹介したり、手をつないで勢いよく遊びに出かけたり…。玉入れの玉の数をヘアの子どことせしめながら数える姿もいっぱいでした。楽しいことも子ども共々共有できました。

おまけ
にっこにこタイムに向けて、1年生がほし組、ひかり組の子どもたちに招待状を書いてプレゼントしました。園児たちは大喜び、1年生が「アンパンマン好きかな?」「かわいくしてあげたい」と細部までこだわって描いたイラストをうれしそうに読んでいました。




◆架け橋期カリキュラムの作成に向けて【資料①】

5歳児担任、1年生担任、加配教員が中心となって作成を進めた。まず、本小学校区の子どもたちの実態を出し合い、「安心できる環境」がすべての活動の土台となることを確認し合った。そして、幼児期の終わりまでに育ててほしい姿(10の姿)のうち、「自立心」「言葉による伝え合い」「協同性」を重点とし、目指す子どもの姿を具体的に考えた。「主な教育課程・予想される活動」を挙げる際には、可能な限り、園と小学校の活動内容が互いに分かる書き方にしたり、ねらう姿を明記したりして、園から小学校への遊びと学びの連続性が分かるように留意した。

3 実践事例

◆スタートカリキュラムの取組【資料②】

幼児教育から小学校教育への滑らかな移行を目指し、スタートカリキュラムの週予定の中に「なかよしタイム」「わくわくタイム」「ぐんぐんタイム」の3つの時間を設けた。具体的な内容は次の通りである。

なかよしタイム…一人ひとりが安心感をもち、新しい人間関係を築いていくことをねらいとする学習

わくわくタイム…生活科を中心とした合科的、関連的な学習

ぐんぐんタイム…教科を中心とした学習

活動を15分1区切りとし、子どもたちの実態に応じた弾力的な時間割が組めるようにした。また、



子どもたちの安心につながる取組として、活動の合間に園で親しんだ手遊びやダンスを取り入れたり、読み聞かせや紙芝居をしたりした。入学当初は「なかよしタイム」を多く設定し、「クラスのみなどと仲良くなろう」というめあてのもとで活動を展開した。話題を変えながら複数回に渡って自己紹介をする機会を設けるとともに、簡単なゲームを取り入れた。これらの活動を通して、子どもが安心して過ごし、少しずつ心を開いていけるよう支援した。

◆互いを知るための取組（保育参観、保育研修、合同研修）

事業1年目の本年度は、園と小学校の「相互理解」に重きを置いた。接続期への理解を深めるため、1年担任が5歳児クラスの保育を参観し、保育研究会にも参加して、子どもたちの育ちや小学校でつなげていきたい支援の方法などについて協議した。

夏休みには小学校全教員が保育研修（4・5歳児）に参加し、保育者の支援や見取った子どもの姿を紙面にまとめた。また、夏の園小合同研修会では、伊藤孝子教授の講演から園と小学校の滑らかな接続について学んだ。園と小学校の学びのつながりや、園児と児童の姿からどのような力が育っているかを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」と絡めて考えていくことで、互いの保育・教育についての理解を深めていくことができた。

◆園児と児童の交流（にっこにこタイム）

園と小学校の子どもたちの交流を「にっこにこタイム」と名付けた。園児が運動会リハーサルや1年生の学習を参観したり、休み時間に一緒に遊んだりすることで、交流を深めていくことができた。園児たちは、小学校での体験を遊びの中に取り入れたり、児童たちへの親しみをもったりして入学への期待を膨らませることにつながった。



4 研究の成果

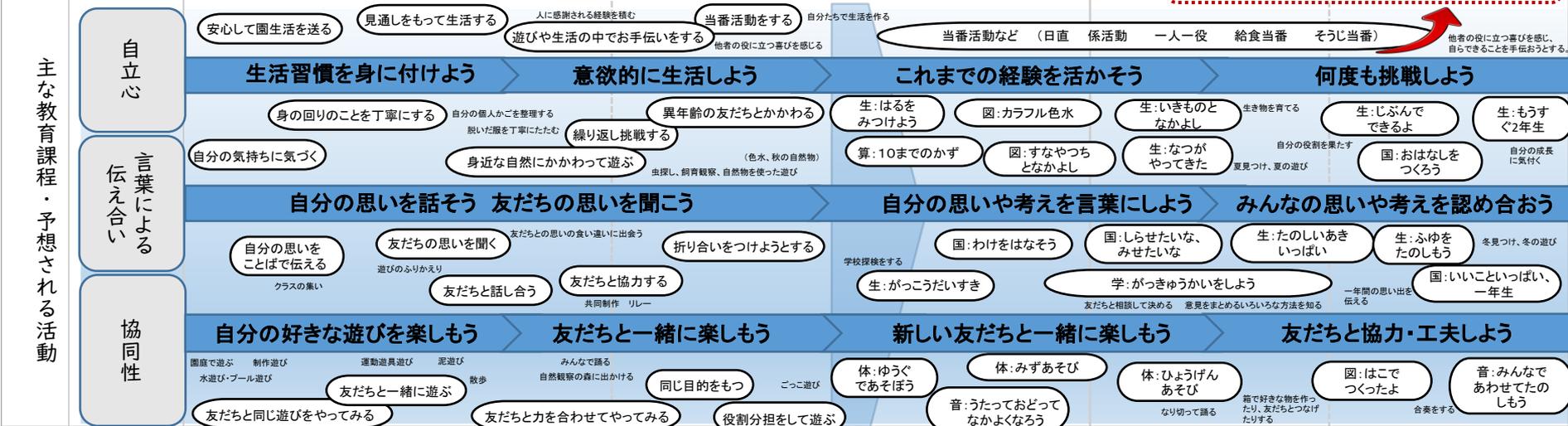
- ・園と小学校の職員が、子どもの姿を中心にして気軽に話し合える関係が深まった。互いの保育、教育を知ることで、子どもたちの様子を共有し、互いが大切にしていることを分かり合うことができた。
- ・子どもの思いをもとに活動が展開されていく園での保育から、小学校の授業を「こうしないといけない」という枠組みにとらわれることなく、柔軟な発想で構成・展開することができた。これにより、子どもたちが「次はこうしたい」という願いや思いをもって活動する姿が見られるようになってきた。
- ・「安心できる環境づくり」に重点を置いて、保育・教育を進めていくことができた。特に、子どもへの関わり方や言葉がけを見直すことで、「最大の環境は教師である」という視点を再認識した。その結果、子ども一人ひとりが安心して活動に取り組むことが可能となり、「分かる」「できそう」が保障された学びへとつなげることができた。

5 課題と今後に向けて

- ・全職員による研修を進めてきたが、取組が架け橋期（5歳児・1年生）に関わる職員に偏っているという課題が残った。全ての子どもたちの「学びに向かう力」を育てるという意識をもち、全職員が自分事として取組を進めていくことができる仕組みを整えたい。
- ・架け橋期において、遊びや学びの過程で大切にしたい経験を無理なくつなぐことを意識しながら、5歳児以前や1年生以降の学びのつながりも意識したい。0歳から始まる全ての年齢・学年で保育・授業を見直し、保育・授業改善に努めたい。

	5 歳児			第 1 学年		
時期	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
期待する子ども像	わくわく・どきどき・やってみたい!・やってみよう!~いろいろなであいを通して、仲間とともに学び合う~					
てほしいう姿 幼児期の終わりまでに育つ	自立心	自分でやりたいことを見つけ、工夫したり試したりして繰り返し遊ぶ。	保育者や友だちに助けをもらいながら、自分のやりたいことに向かって見通しをもって活動する。	これまでの経験を活かして、様々なことに取り組み、「できた」という経験を積み、自信を蓄えていく。	自分なりに考えたり試行錯誤したりしながら、ねばり強く取り組む。	
	言葉による伝え合い	・気持ちや思い、考えを、自分なりの言葉で伝え、友だちと相談したり話し合ったりする経験を重ねる。		新しい友だちと関わる中で、教師とともに自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。	互いの思いや考えを伝え合ったり認め合ったりして、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流することを楽しむ。	
	協同性	友だちと一緒に過ごす中で、「一緒にやりたい」「一緒にやったら楽しい」という気持ちをもつ。	保育者や友だちと相談したり、協力したりしながら、互いの思いや考えなどに気づく。	新しい友だち関係の中でも、自分の思いや考えをもち、友だちと協力する楽しさやよさを感じる。	友だちと意見を交わしながら、友だちと協力する楽しさや、ともに考えて工夫をしていくよさを味わう。	
大切にしたいこと	環境単元	・子どもたちの“やりたい”が叶う環境 ・遊びや友だちをつなぐ環境		・園で経験してきたことや子どもの思いをを活かし、発展させる単元構成 ・学びの足跡がわかる掲示物の作成		
	先生の関わり	・子どもたちと信頼関係を築き、豊かな経験、心を動かす体験を共に味わう。		・これまでの経験や思いを引き出す問いかけ「どうしていたの?」「どうしたい?」「どう思う?」 ・次にどうしていきたいかを思い描けるようなふり返りの工夫 ・めあてを示し、子どもが見通しをもって活動を進めていくための視覚支援の充実		
	キーワード	安心できる環境 心が動く 活動に浸る 認め合い 試行錯誤				

★ カリキュラムを見るポイント ★
すべての活動はいろいろな力が交わり合っていることを忘れない。



		5 歳児			第 1 学年
時期		4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3	4・5・6・7
期待する子ども像		わくわく・どきどき・やってみたい!・やってみよう! ～いろいろなであいを通して、仲間とともに学び合う～			
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	自分でやりたいことを見つけ、工夫したり試したりして繰り返し遊ぶ。		保育者や友だちに助けをもらいながら、自分のやりたいことに向かって見通しをもって活動する。	
	協同性	気持ちや思い、考えを、自分なりの言葉で伝え、友だちと相談したり話し合ったりする経験を重ねる。			
	言葉による伝え合い	友だちと一緒に過ごす中で、「一緒にやりたい」「一緒にやったら楽しい」という気持ちをもつ。		保育者や友だちと相談したり、協力したりしながら、互いの思いや考えなどに気づく。	
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた	子ども遊びの姿	<p>〈安心できる環境の中で好きな遊びを見つけて遊ぶ〉</p> <p>子どもたちのやりたい遊びを探り、保育室の環境を整える。それぞれのコーナーでゆっくり遊べるよう工夫し、保育者も一緒に遊ぶ中で、信頼関係を深めていった。</p> <p>楽しい、悲しい、イライラするなど様々な気持ちを丁寧に受け止めることで少しずつ落ち着いて話したり、思いを聞いたりする姿が増えた。</p> 	<p>〈友だちと力を合わせて遊ぶ楽しさ〉</p> <p>プールでの開放的な遊び、タオルを使ったふれあい遊びやダンス、「うんどうの森」と称した運動遊具を使った運動遊びなど、しっかり体を動かして遊んできた。子どもが運動遊具をセッティングしたり、ダンスに複数人で完成する技を取り入れたりすることによって、友だちと同じイメージや目的をもって遊ぶ楽しさを感じるようになり、自分の気持ちを押し通すだけでなく、友だちの思いと調整を取りながら遊ぶ姿が増えていった。</p> 		
		<p>〈子どもたちの『やりたい』から始まる遊び〉</p> <p>大好きな制作遊びの中で楽器を作り、コンサート遊びへと発展したり、身近な砂や水に色水やせっけんを取り入れ、その変化に気づいて遊んだりやりたい遊びを気の合う友だちと楽しめるようになった。自分自身や友だちとの関わりの中で、自ら見つけた遊びを夢中になって遊ぶ姿となり、安定して過ごせるようになっていった。</p>  	<p>〈友だちとやりたい遊びを遊びこむ〉</p> <p>色水や泡遊び、運動遊びや制作遊びなど、子どもたちの好きな遊びを継続して楽しめるようにしてきた。戸外・室内どちらにも同じ環境を整えることで、砂場遊びやお店屋さんごっこなど他の遊びともつながって、遊びが発展していった。</p>  	<p>継続して遊べるようにすることで、繰り返し試行錯誤したり教え合ったりする姿につながった。</p>	
		<p>子ども同士の遊びを少しずつつなげていくことで、自分の思いを満たしてほしい気持ちが強かった子どもも、友だちと一緒に遊びたい思いをもてるようになり、自分の気持ちや行動と向き合う機会が増えた。</p>	<p>〈遊びの振り返り時間の充実〉</p> <p>一学期は「楽しかった」「〇〇が嫌だった」などの意見が多かったが、「遊びをもっとおもしろくするためにはどうする?」など遊びを発展させるための意見やアイデアが出てくるようになった。クラスや学年で話し合い、遊びがより面白くなっていくことを経験したことで、集まるまでにかかる時間が短くなり、意欲的に話し合いに参加する子どもが増えてきた。</p>  		

5歳児

第1学年

時期	1・2・3	4・5・6・7	8・9・10・11・12	1・2・3
----	-------	---------	--------------	-------

期待する子ども像

わくわく・どきどき・やってみたい!・やってみよう!
～いろいろなであいを通して、仲間とともに学び合う～

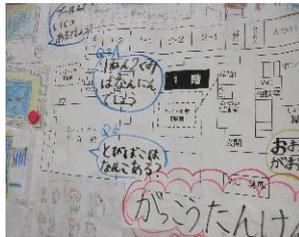
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	自立心	これまでの経験をいかして、様々なことに取り組み、「できた」という経験を積み、自信を蓄えていく。	自分なりに考えたり試行錯誤したりしながら、ねばり強く取り組む。
	協同性	新しい友だち関係の中でも、自分の思いや考えをもち、友だちと協力する楽しさやよさを感じる。	友だちと意見を交わしながら、友だちと協力する楽しさや、ともに考えて工夫をしていくよさを味わう。
	言葉による伝え合い	新しい友だちと関わる中で、教師とともに自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。	互いの思いや考えを伝え合ったり認め合ったりして、言葉による伝え合いやいろいろな考えを交流することを楽しむ。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿が見られた

○生活科「がっこうだいすき」の学習では、子どもたちが、探検したい場所を決め、探検していく中で、学校にあるもの、学校にいる先生や友だちなどに興味・関心を高めていくことができた。

〈学びを広げる〉

学校探検の後、学級で「がっこうたんけんまっぷ」を作成した。その際、子どもたちが学校のクイズを考え、マップに載せることで、さらに「学校のことが知りたい」といった意欲が高まり、活動を広げていくことができた。



〈学びを関連付ける〉

国語科「わけをはなそう」の学習では、学校探検で見つけたお気に入りの教室を話をもとに発表した。生活科で活動を十分ににしたこともあり、子どもたちは、自信をもってお気に入りの教室を友だちに言葉で伝える姿が見られた。



○生活科「たのしいあきいっぱい」の学習では、秋の自然を見つけたり遊んだりする活動を通して、木の実などの自然物を使って遊びを工夫して作り出し、友だちとあきまつりのお店を準備したり楽しんだりすることができた。

〈学びの連続性と高まり〉

① 見つける→遊ぶ

校庭や学校近くの公園を探検して、秋見つけをした。子どもたちはどんぐりや落ち葉を「おたから」として大切に持ち帰る姿が見られた。その中で、担任がどんぐりゴマのおもちゃを紹介すると、真似をして遊び出したり、「拾ったまっぼっくりでけん玉を作りたい」と、新たなおもちゃや遊びを次々に考えて作り、楽しむことができた。

② 一人→みんなで

初めは、個々で作っていたおもちゃだったが、友だち同士の交流が生まれ、一緒に遊び出すようになった。それがやがてお店のような形態となり、「あきまつりを開きたい」「こども園の友だちを呼びたい」という新たな活動への期待感が高まった。

③ 5歳児を招待するための試行錯誤

「5歳児さん呼びたい」という願いは、ただ自分たちが遊びを楽しむだけでなく、相手のことに思いを馳せ、ルールをわかりやすくしたり相手が好きそうなものを考えたりして、同じお店の友だちと話し合いをくり返しながら試行錯誤して取り組むことができ、学びの質を高めていくことにつながった。



治田東小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【どきどき わくわく 治田東小学校！】 1年生になったことを喜び、安心して過ごそう。													
月 日						4月9日(水)				4月10日(木)				4月 11日(金)
行事等						入学式				分団会③				
登校後						登校後、かばんは机の上に置いておく。 ・トイレ、手洗い ・読み聞かせ ・手遊び			登校後、かばんは机の上に置いておく。 ・トイレ、手洗い ・読み聞かせ ・手遊び					
朝の会														
朝学習														
1校時						行 行 行	入学式	生 生 生	<わくわくタイム> 「がっこうのはてなを かいけつしよう」 ・あさのあいさつ ・荷物の片づけ方 ・引き出し、ロッカー 荷物かけの使い方 ・提出物の出し方	国 学 学	<わくわくタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「がっこうのはてなをか いけつしよう」 ・靴箱、傘立ての使い方 ・小学校の一日			
2校時						学 学 学	<なかよしタイム> 「きょうから 1ねんせい」	学 学 学	・健康観察 ・トイレの使い方 ・読み聞かせ ・今日の予定	国 国 児	<なかよしタイム> 「なかよく なろう」① ・自己紹介をしよう 今日のテーマ「すぎなあそ び」を答えよう。 ・帰りの用意の仕方			
3校時								児 児 児	<なかよしタイム> 「なかよくかえろう」 ・安全な帰り方 ・分団下校のしかた	学 学 学	<なかよしタイム> 「なかよくかえろう」 ・安全な帰り方 ・学年下校のしかた ・帰りの用意のしかた			
4校時														
給食														
昼休み														
掃除														
5校時														
備考														

治田東小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【どきどき わくわく 治田東小学校！】 1年生になったことを喜び、安心して過ごそう。																			
月 日	4月14日(月)		4月15日(火)		4月16日(水)		4月17日(木)		4月18日(金)											
行事等	1年④まで		1年④まで		1年④まで 検尿容器配付		1年④まで 検尿		1年④まで 検尿											
登校後	①手洗い・うがい ②荷物のかたづけ ③提出物を出す ④好きな遊びをして過ごす。 ⑤トイレ・手洗い																			
朝の会											※学級や子どもの実態に合わせて柔軟に行う。									
朝学習																				
1校時	国 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	学 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	学 「たいどうふくに きかえよう」 ・体操服の着替え方と片 づけ方	学 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	学 「やすみじかんの すこしかた」	生 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	生 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	国 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	国 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	国 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定	国 「なかよしタイム」 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定									
2校時	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを かいつしよう」 ・こまったときは、どうす るの？ ・保健室、職員室の場所	体 「くんぐんタイム」 「たのしく あそぼう」 ・ならびっこ遊び ・着がえよう	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを かいつしよう」 ・こまったときは、どうす るの？ ・保健室、職員室の場所	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを みつけよう」 ・なにがあるかな？ ・だれがいるかな？	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「つ」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「く」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「つ」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「く」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「く」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「く」	国 「くんぐんタイム」 ひらがなのれんしゅう 「く」									
3校時	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを かいつしよう」 ・給食はどこからくる の？ ・給食室のせんせい	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを かいつしよう」 ・こまったときは、どうす るの？ ・保健室、職員室の場所	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを かいつしよう」 ・こまったときは、どうす るの？ ・保健室、職員室の場所	図 「くんぐんタイム」 「じぶんの かおをかこう」	生 「わくわくタイム」 「がっこうのはてなを みつけよう」 ・なにがあるかな？ ・だれがいるかな？															
4校時	学 「なかよしタイム」 「たのしいきゅ うしょく」 ・給食の準備 ・たのしく食べよう	国 「くんぐんタイム」 「せんあそびを しよう」 ・よいしせい ・えんぴつのもちかた	学 給食の用意	国 「くんぐんタイム」 「せんあそびを しよう」 ・よいしせい ・えんぴつのもちかた	学 給食の用意	音 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌	音 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌	算 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌	算 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌	算 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌	算 「くんぐんタイム」 「たのしく うたおう」 ・春の歌 ・校歌									
給食																				
昼休み																				
掃除																				
5校時																				
備考																				

治田東小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【自分でできること いっぱいあるよ】 友だちや先生となかよくなって、学校のルールを知ったりきまりを考えたりしよう。				
月 日	4月21日(月)	4月22日(火)	4月23日(水)	4月24日(木)	4月25日(金)
行事等				個別懇談会 短縮4時間	個別懇談会 短縮4時間
登校後	※学級や子どもの実態に合わせて柔軟に行う。				
朝の会					
朝学習					
1校時	学 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 学 「ぞうだんしょう」 どんなクラスにしたいかな 学	国 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「なかよくなるろう」⑤ ・今日のテーマ 「すきないろ」を 答えよう。 国 学 きがえよう	国 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「なかよくなるろう」④ ・今日のテーマ 「すきな本」を 答えよう。 国 学	国 <なかよしタイム> 読み聞かせ・手遊び・歌 健康観察 今日の予定 「なかよくなるろう」⑤ ・今日のテーマ 「すきな〇〇」を 答えよう。 国 学	国 <くんくんタイム> ひらがなの れんしゅう 「ろ」 国 国
2校時	生 <わくわくタイム> 「いくぞ!がっこう たんけんたい」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことをはなそう。 国	国 <くんくんタイム> ひらがなのれんしゅう 「へ」 国	体 <くんくんタイム> 「だのしく あそぼう」 ・ならびっこ遊び ・おにあそび 国	国 <くんくんタイム> ひらがなのれんしゅう 「の」 国	算 <くんくんタイム> 「10までのかず」 算 算
3校時	道 <くんくんタイム> 「だのしい がっこう」 道 道	生 <わくわくタイム> 「いくぞ!がっこう たんけんたい」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことをはなそう。 国	生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてな をみつけよう」 ・学校で行ってみたいと ころは? ・やくそくをきめよう。 ・あいさつのしかた 国	生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを みつけよう」 ・気になる場所に行って みよう。 国	生 <わくわくタイム> 「がっこうのはてなを みつけよう」 ・としまつにいこう 生
4校時	国 <くんくんタイム> ひらがなのれんしゅう 「し」 国 学 給食の準備を しよう	算 <くんくんタイム> 「くらべよう」 算 学 給食の準備を しよう	国 <くんくんタイム> ひらがなのれんしゅう れんしゅう 「へ」 国 学 給食の準備を しよう	図 <くんくんタイム> ひらがなのれんしゅう れんしゅう 「へ」 図 学 給食の準備を しよう	音 <くんくんタイム> 「だのしくうたおう」 ・春の歌 ・桜歌 音 学 給食の準備を しよう
給食	きゅうしょくをたべよう	きゅうしょくをたべよう	きゅうしょくをたべよう	きゅうしょくをたべよう	きゅうしょくをたべよう
昼休み	かたづけをしよう	かたづけをしよう	かたづけをしよう	かたづけをしよう	かたづけをしよう
掃除	かえりのよういを しよう	かえりのよういを しよう	かえりのよういを しよう	かえりのよういを しよう	かえりのよういを しよう
5校時					
備考					

治田東小学校 スタートカリキュラム 週案

週目標	【小学校って おもしろいな！たのしいな！】							
月 日	4月28日(月)	4月29日(火)	4月30日(水)	5月1日(木)	5月2日(金)			
行事等	個別懇談会 短縮4時間	昭和の日	個別懇談会 短縮4時間	個別懇談会 短縮4時間	個別懇談会 短縮4時間			
登校後	①朝の準備 ②好きな遊び ③手洗い・トイレ ①手遊び・歌・読み聞かせ ②健康観察 ③一日の予定							
朝の会								
朝学習								
1校時	道 道 道	<ぐんぐんタイム> 「うまれたての いのち」	学 学 学	<なかよしタイム> 「ひとりひとやくを きめよう」	国 国 国	<ぐんぐんタイム> うたにあわせて あいうえお	国 国 国	<ぐんぐんタイム> あさのおひさま
2校時	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう 「ん」	図 図 図	<ぐんぐんタイム> ひもひもねんど	生 生 生	<わくわくタイム> 「がっこうのほてなを みつけよう」 ・みんなで探検しよう。 ・見つけたことをはなそ う。	音 音 音	<ぐんぐんタイム>「み んなで うたおう」 ・春の歌 ・校歌
3校時	生 生 生	<わくわくタイム> 「がっこうのほてな をみつけよう」 ・はるをみつけよう。 ・見つけたことをはなそ う。	算 算 算	<ぐんぐんタイム> 「10までのかず」	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう 「い」	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ひらがなの れんしゅう 「う」
4校時	算 算 算	<ぐんぐんタイム> 「10までのかず」	国 国 国	<ぐんぐんタイム> ひらがなのれんしゅう 「ろ」	算 算 算	<ぐんぐんタイム> 「10までのかず」	学 学 学	<なかよしタイム> 「みんなであそぼう」
給食	きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう		きゅうしよくをたべよう	
昼休み	かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう		かたづけをしよう	
掃除	そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう		そうじをしよう	
5校時								
備考								